(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2002-348288 (P2002-348288A)

(43)公開日 平成14年12月4日(2002.12.4)

大阪府三島郡島本町桜井3-1-1 小野 薬品工業株式会社水無瀬総合研究所内

最終頁に続く

(51) Int.Cl.7	酸別記号	FΙ	テーマコード(参考)
C 0 7 D 471/10	102	C 0 7 D 471/10	102 4C065
A 6 1 K 31/527		A 6 1 K 31/527	4 C 0 7 2
C 0 7 D 471/20		C 0 7 D 471/20	4 C 0 8 6
513/20		513/20	
// A 6 1 P 1/04		A 6 1 P 1/04	
	審査請求	未請求 請求項の数1 C)L (全 45 頁) 最終頁に続く
(21)出願番号	特顧2001-159583(P2001-159583)	(71)出顧人 000185983	工業株式会社
(22)出願日	平成13年5月28日(2001.5.28)	1	反市中央区道修町2丁目1番5号
		大阪府三島	島郡島本町桜井3-1-1 小野 朱式会社水無瀬総合研究所内
		·	句 島郡島本町桜并3-1-1 小野 朱式会社水無瀬総合研究所内

(72)発明者 柴山 史朗

(54) 【発明の名称】 スピロ複素環誘導体およびそれらを有効成分とする薬剤

(57)【要約】

【構成】 一般式(I)

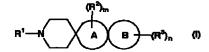
【化1】



 $(R^1 は H、アルキル、アルケニル等; R^2 はケト、チオケト、アルキル等; R^3 はアルキル、アルケニル等; AB環は縮合二環、スピロ環)で示されるスピロ複素環誘導体、その製造方法、それらを有効成分として含有する薬剤。$

【効果】 一般式(I)で示される化合物は、ケモカイン/ケモカイン受容体の作用を制御するので、各種炎症性疾患、アレルギー疾患、免疫抑制、癌転移予防、後天性免疫不全症候群の予防および/または治療に有用である。

【特許請求の範囲】 【請求項1】一般式(Ⅰ) 【化1】



[式中、 R^1 は、(1) 水素原子、(2) $C1\sim18$ ア ルキル基、(3) C2~18アルケニル基、(4) C2 ~18アルキニル基、(5) -COR⁶、(6) -CO 10 $NR^{7}R^{8}$, (7) $-COOR^{9}$, (8) $-SO_{2}R$ 10 , (9) $-COCOOR^{11}$, (10) -CONR¹² COR¹³ 、 (11) Cyc1、または (12) 任 意に選ばれた1~5個の(a)ハロゲン原子、(b)-CON $R^{7} R^{8}$, (c) $-COOR^{9}$, (d) $-OR^{14}$, (e) -S R^{15} , $(f)-NR^{16}$ R^{17} , $(g)-NR^{18}$ COR 19 , (h) $- SO_2 NR^{20} R^{21}$, (i) - OCO R^{22} , $(j)-NR^{23}$ SO₂ R^{24} , $(k)-NR^{25}$ C OOR^{26} , (1) $-NR^{27}$ $CONR^{28}$ R^{29} , (m) C y c 1、(n)ケト基、(o)-N (SO₂ R²⁴) 2 によっ 20 て置換されたC1~18アルキル基、C2~18アルケ ニル基、またはC2~18アルキニル基を表わし、R6 ~R⁹、R¹¹ ~R²¹、R²³、R²⁵ およびR²⁷ ~R²⁹ はそれぞれ独立して、(1)水素原子、(2)C1~ 8アルキル基、(3) C 2~8アルケニル基、(4) C 2~8 アルキニル基、(5) Сус1、または(6) 任意に選ばれた 1~5個の(a) Cyc1、(b) ハロゲン原子、(c) - OR 30 , (d) - S R 31 , (e) - N R 32 R 33 , (f) - C OOR^{34} , (g) $-CONR^{35}$ R^{36} , (h) $-NR^{37}$ COR^{38} , (i)-NR³⁹ SO₂ R⁴⁰, (j)-N (S 30 O₂ R⁴⁰)₂ によって置換されたC₁~8アルキル 基、C2~8アルケニル基、またはC2~8アルキニル 基を表わすか、R⁷とR⁸、R²⁰とR²¹、R²⁸と R²⁹ は一緒になって、1) C 2~6 アルキレン基、2) -(C2~6アルキレン基) -O- (C2~6アルキレン 基) -、3)- (C2~6アルキレン基) - S- (C2~ 6アルキレン基) - 、または4) - (C2~6アルキレン 基) -NR¹⁹⁵ - (C2~6アルキレン基) -を表わ し、R¹⁹⁵ は、水素原子、C1~8アルキル基、フェ ニル基、またはフェニル基によって置換されたC1~8 アルキル基を表わし、R¹⁰ 、R²² 、R²⁴ およびR ²⁶ はそれぞれ独立して、(1) C 1 ~ 8 アルキル基、(2) C2~8アルケニル基、(3) C2~8アルキニル基、(4) Cyc1、または(5)任意に選ばれた1~5個の(a)Cy c 1、(b)ハロゲン原子、(c)-OR³⁰、(d)-SR $^{3\,1}$, (e) $-N\,R^{\,3\,2}$ $R^{\,3\,3}$, (f) $-\,C\,O\,O\,R^{\,3\,4}$, (g) $-CONR^{35}R^{36}$ (h) $-NR^{37}COR^{38}$ (i) $-NR^{39}SO_2R^{40}$, (j)-N (SO₂R⁴⁰)₂ によって置換されたC1~8アルキル基、C2~8アル ケニル基、またはC2~8アルキニル基を表わし、R

 30 \sim R^{37} および R^{39} はそれぞれ独立して、水素原 子、C1~8アルキル基、Cyc1、またはCyc1に よって置換されたC1~8アルキル基を表わすか、R ³⁵ とR³⁶ は一緒になって、1)C2~6アルキレン 基、2)-(C2~6アルキレン基)-O-(C2~6ア ルキレン基) -、3)- (C2~6アルキレン基) -S-(C2~6アルキレン基) -、または4)- (C2~6ア ルキレン基) $-NR^{196}$ $-(C2\sim6アルキレン基)$ - を表わし、R¹⁹⁶ は、水素原子、C1~8アルキル 基、フェニル基、またはフェニル基によって置換された C1~8アルキル基を表わし、R38 およびR40 はそ れぞれ独立して、C1~8アルキル基、Cyc1、また はCyc1によって置換されたC1~8アルキル基を表 わし、Сус1は、С3~15の単環炭素環、あるいは 二環、三環式の縮合あるいはスピロ炭素環、または1~ 4個の窒素原子、1~3個の酸素原子および/または1 ~3個の硫黄原子を含む3~15員の単環複素環、ある いは二環、三環式の縮合あるいはスピロ複素環を表わ し、Сус1は1~5個のR51 によって置換されてい てもよく、R⁵¹ は、(1) C1~8アルキル基、(2) C2 ~8アルケニル基、(3) C 2~8アルキニル基、(4)ハロ ゲン原子、(5)ニトロ基、(6)トリフルオロメチル基、 (7)トリフルオロメトキシ基、(8)シアノ基、(9)ケト 基、(10) C y c 2(11) - O R 52 、(12) - S R 53 、(13) $-NR^{54}R^{55}$, $(14) - COOR^{56}$, (15) - CO $NR^{57}R^{58}$, $(16)-NR^{59}COR^{60}$, (17)-S $O_2 NR^{61} R^{62}$, $(18) - OCOR^{63}$, (19) - NR 64 SO₂ R 65 、 (20) $-NR^{66}$ COOR 67 、 (21) $-NR^{68}CONR^{69}R^{70}$, (22) $-B(OR^{71})$ $_{2}$, $(23) - SO_{2} R^{72}$, (24) - N (SO 2 R 72) 2 、または(25)任意に選ばれた1~5個の (a) ハロゲン原子、(b) Cyc2、(c) - OR⁵²、(d) -SR 53 , (e)-NR 54 R 55 , (f)-COOR 56 , $(g) - CONR^{5} R^{5} R^{5}$, $(h) - NR^{5} COR^{6}$, $(i) - SO_2 NR^{61} R^{62}$, $(j) - OCOR^{63}$, (k) $-NR^{64} SO_2 R^{65}$ (1) $-NR^{66} COO$ R^{67} , (m) $-NR^{68}$ $CONR^{69}$ R^{70} , (n) -B $(OR^{71})_2$, $(o) - SO_2R^{72}$, $(p) - N(SO_2$ R^{72}) 2、(q) ケト基によって置換された $C1\sim8$ アルキル基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニ ル基を表わし、R⁵² ~R⁶² 、R⁶⁴ 、R⁶⁶ および R ⁶⁸ ~ R ⁷¹ はそれぞれ独立して、1) 水素原子、2) C 1~8アルキル基、3) C 2~8アルケニル基、4) C 2~ 8アルキニル基、5) Cyc2、または6) Cyc2、-O R^{73} 、 $-COOR^{74}$ 、 $-NR^{75}$ R^{76} によって置 換されたC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基、 C2~8アルキニル基を表わすか、R⁵⁷ とR⁵⁸ 、R 61 とR62 、R69 とR70 は一緒になって、1)C2 ~6アルキレン基、2)- (C2~6アルキレン基)-O - (C2~6アルキレン基) -、3)- (C2~6アルキ

レン基)-S- (C2~6アルキレン基)-、または4) - (C2~6アルキレン基) -NR¹⁹⁷ - (C2~6 アルキレン基)ーを表わし、R¹⁹⁷ は、水素原子、C 1~8アルキル基、フェニル基、またはフェニル基によ って置換されたC1~8アルキル基を表わし、R63、 R⁶⁵ 、R⁶⁷ およびR⁷² はそれぞれ独立して、1)C 1~8アルキル基、2) C 2~8アルケニル基、3) C 2~ 8アルキニル基、4) Cyc2、または5) Cyc2、-O R⁷³ 、-COOR⁷⁴ 、-NR⁷⁵ R⁷⁶ によって置 換されたC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基、 C2~8アルキニル基を表わし、R⁷³ ~R⁷⁶ はそれ ぞれ独立して、水素原子、C1~8アルキル基、Cyc 2、またはCyc2によって置換されたC1~8アルキ ル基を表わし、Cyc2はCyc1と同じ意味を表わ し、Cyc2は1~5個の R^{77} によって置換されてい てもよく、R⁷⁷ は、

- 1) C 1 ~ 8 アルキル基、
- 2)ハロゲン原子、
- 3) ニトロ基、
- 4) トリフルオロメチル基、
- 5) トリフルオロメトキシ基、
- 6)シアノ基、
- 7) OR^{78}
- 8) $-NR^{79}R^{80}$,
- 9) $-COOR^{81}$,
- $10) S R^{82}$,
- $11) CONR^{83} R^{84}$,
- 12) C 2~8アルケニル基、
- 13) C 2~8アルキニル基、
- 14)ケト基、
- 15) Cyc6,
- 16) $-NR^{161}$ COR 162
- $17) SO_2 NR^{163} R^{164}$,
- $18) OCOR^{165}$,
- 19) $-NR^{166}$ SO₂ R^{167}
- 20) $-NR^{168}COOR^{169}$
- $21) NR^{170} CONR^{171} R^{172}$
- 22) $SO_2 R^{173}$,
- $23) N (SO_2 R^{167})_2$

24)任意に選ばれた $1\sim 5$ 個の (a) ハロゲン原子、 (b) ー OR 78 、 (c) - NR 79 R 80 、 (d) - COOR 81 、 (e) - SR 82 、 (f) - CONR 83 R 84 、 (g) 4 ケト基、 (h) Cyc 6、 (i) - NR 161 COR 162 、 (j) - SO $_2$ NR 163 R 164 、 (k) - OCOR 165 、 (1) - NR 166 SO $_2$ R 167 、 (m) - NR 168 COOR 169 、 (n) - NR 170 CONR 171 R 172 、 (o) - SO $_2$ R 173 、 (p) - N (SO $_2$ R 167) $_2$ によって置換された - C - 8 アルキル基、 C $_2$ - 8 アルキニル基を表わし、 R 78 - R 84 、 R 161 - R 164 、

れ独立して、(a) 水素原子、(b) C1~8アルキル基、 (c) C 2~8アルケニル基、(d) C 2~8アルキニル基、 (e) C y c 6, (f) C y c 6, $-OR^{174}$, -COOR 175 , $-NR^{176}$ R^{177} , $-CONR^{178}$ R17 9 によって置換されたC1~8アルキル基、C2~ 8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表わすか、R 83 \geq R^{84} , R^{163} \geq R^{164} , R^{171} \geq R^{184} 172 は一緒になって、1) C 2~6アルキレン基、2)-(C2~6アルキレン基) -O- (C2~6アルキレン 基) -、3)- (C2~6アルキレン基) -S- (C2~ 6アルキレン基) -、または4)- (C2~6アルキレン 基) -NR¹⁹⁸ - (C2~6アルキレン基) -を表わ し、R¹⁹⁸ は、水素原子、C1~8アルキル基、フェ ニル基、またはフェニル基によって置換されたC1~8 アルキル基を表わし、R¹⁶⁵ 、R¹⁶⁷ 、R¹⁶⁹ お よび R^{173} はそれぞれ独立して、(a) $C1\sim8$ アルキ ル基、(b) C 2~8アルケニル基、(c) C 2~8アルキニ ル基、(d) Cyc6、または(e) Cyc6、-O 20 R^{174} , $-COOR^{175}$, $-NR^{176}$ $R^{17.7}$, -CONR¹⁷⁸ R¹⁷⁹ によって置換されたC1~8 アルキル基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニ ル基を表わし、 R^{174} ~ R^{177} はそれぞれ独立し て、1)水素原子、2)C1~8アルキル基、3)Cyc6、 または4) Сус6によって置換されたС1~8アルキル 基を表わすか、R¹⁷⁸ とR¹⁷⁹ は一緒になって、1) $C2\sim6$ アルキレン基、2) - ($C2\sim6$ アルキレン基) -O- (C2~6アルキレン基) -、3)- (C2~6ア ルキレン基) -S-(C2~6アルキレン基) -、また 30 は4)- (C2~6アルキレン基) -NR¹⁹⁹ - (C2 ~6アルキレン基) - を表わし、R 199 は、水素原 子、C1~8アルキル基、フェニル基、またはフェニル 基によって置換されたC1~8アルキル基を表わし、C y c 6は、C 3~8の単環式炭素環または1~4個の窒 素原子、1~2個の酸素原子および/または1~2個の 硫黄原子を含む3~8員の単環式複素環を表わし、Cy c6は1~5個のR¹⁸⁰ によって置換されていてもよ く、R¹⁸⁰ は、(1) C1~8アルキル基、(2) ハロゲン 原子、(3)ニトロ基、(4)トリフルオロメチル基、(5)ト リフルオロメトキシ基、(6)シアノ基、(7)-O R^{181} , $(8) - NR^{182}$ R^{183} , (9) - COOR 184 、 $(10) - SR^{185}$ 、または(11) - CONR¹⁸⁶ R¹⁸⁷ を表わしR¹⁸¹ ~R¹⁸⁷ はそれぞれ 独立して、1) 水素原子、2) C1~8アルキル基、3) フェ ニル基、または4)フェニル基によって置換されたС1~ 8アルキル基を表わすか、R¹⁸² とR¹⁸³ 、R 186 とR¹⁸⁷ は一緒になって、1)C2~6アルキレ ン基、2)- (C2~6アルキレン基)-O- (C2~6 アルキレン基) -、3)- (C2~6アルキレン基) - S - (C2~6アルキレン基) -、または4)- (C2~6

アルキレン基) $-NR^{200}$ $-(C2\sim6$ アルキレン 基) -を表わし、 R^{200} は、水素原子、 $C1\sim8$ アルキル基、フェニル基、フェニル基によって置換されたC $1\sim8$ アルキル基を表わし、

【化2】



は、A環とB環が(i)共有原子2個で結合する縮合二 環、または(ii)スピロ結合するスピロ環を表わし、 A環は(i)C5、6の飽和あるいは一部飽和の炭素 環、または(i i)窒素原子、酸素原子あるいは硫黄原 子から選ばれる1~3個のヘテロ原子を含有する5また は6員の飽和あるいは一部飽和の複素環を表わし、B環 は(i) C4~7の飽和あるいは一部飽和の炭素環、ま たは(ii)窒素原子、酸素原子あるいは硫黄原子から 選ばれる1~3個のヘテロ原子を含有する4~7員の飽 和あるいは一部飽和の複素環を表わし、R²は、(1) ケト基、(2) チオケト基、(3) C1~8アルキル 基、(4) C2~8アルケニル基、(5) C2~8アル 20 キニル基、(6) - OR⁹⁰ 、(7) Cyc3、または (8) 任意に選ばれた $1 \sim 5$ 個の (a) ハロゲン原子、(b) $-OR^{90}$ (c) $-SR^{91}$ (d) $-NR^{92}$ R^{93} ((e) $-COOR^{94}$, (f) $-CONR^{95}$ R^{96} , (g) - $NR^{97}COR^{98}$, (h) $-SO_2NR^{99}R^{100}$, $(i) - OCOR^{101}$, $(j) - NR^{102}$ SO $_{2} R^{103}$, $_{(k)}-NR^{104}$ COOR $_{105}$, $_{(1)}-N$ $R^{106} CONR^{107} R^{108}$ (m) Cyc3, (n) ϕ ト基、(o)-N (SO₂ R¹⁰³)₂ によって置換され たC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基またはC 30 2~8アルキニル基を表わし、R⁹⁰ ~R¹⁰⁰ 、R 102 、R104 およびR106 ~R108 はそれぞれ 独立して、1)水素原子、2)C1~8アルキル基、3)C2 ~8アルケニル基、4) C 2~8アルキニル基、5) C y c 3、または6) Сус 3によって置換されたС1~8アル キル基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニル基 を表わすか、R⁹⁵ とR⁹⁶ 、R⁹⁹ とR¹⁰⁰ 、R 107 とR¹⁰⁸ は一緒になって、1) C 2 ~ 6 アルキレ ン基、2)- (C2~6アルキレン基) -O- (C2~6 アルキレン基) -、3)- (C2~6アルキレン基) -S - (C2~6アルキレン基) -、または4)- (C2~6 アルキレン基) $-NR^{201}$ - (C2~6アルキレン 基) - を表わし、R²⁰¹ は、水素原子、C1~8アル キル基、フェニル基、またはフェニル基によって置換さ れた $C1\sim8$ アルキル基を表わし、 R^{101} 、 R^{103} および R^{105} はそれぞれ独立して、1) $C1\sim8$ アルキ ル基、2) C 2~8アルケニル基、3) C 2~8アルキニル 基、または4) Сус3またはСус3によって置換され たC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基、C2~ 8アルキニル基を表わし、Сус3はСус1と同じ意 50 味を表わし、Cyc3は $1\sim5$ 個の R^{109} によって置換されていてもよく、 R^{109} は R^{51} と同じ意味を表わし、 R^3 は、(1) $C1\sim8$ アルキル基、(2)C2

~8アルケニル基、(3) C2~8アルキニル基、 $(4) - COOR^{120}$, $(5) - CONR^{121}$ R 122 , (6) Cyc4, (7) $-OR^{123}$, (8) $-COR^{131}$ (9) $-SO_2 R^{133}$ (state) 0) 任意に選ばれた $1 \sim 5$ 個の(a) ハロゲン原子、(b) シ アノ基、(c) C y c 4、(d) - COOR 120 、(e) - C $ONR^{121} R^{122}$, $(f) - OR^{123}$, (g) - SR $^{1\,2\,4}$, (h) $-\,N\,R^{\,1\,2\,5}$ $R^{\,1\,2\,6}$, (i) $-\,N\,R^{\,1\,2\,7}$ C OR^{128} , $(j) - SO_2 NR^{129} R^{130}$, (k) - O COR^{131} , (1) $-NR^{132}$ SO_2R^{133} , (m) - $NR^{134} COOR^{135}$ (n)-NR¹³⁶ CONR ¹³⁷ R¹³⁸ 、(o)ケト基によって置換されたC1~ 8アルキル基、C2~8アルケニル基、またはC2~8 アルキニル基を表わし、R120 ~R130 、 R^{132} , R^{134} , 38 , 38 , 38 , 38 , 38 , 38ぞれ独立して、1)水素原子、2)C1~8アルキル基、3) C2~8アルケニル基、4)C2~8アルキニル基、5)C y c 4、または6) C y c 4、ハロゲン原子、-OR 148 $\sqrt{-SR^{149}}$ $\sqrt{-COOR^{150}}$ \sqrt{s} HCOR¹⁴¹ によって置換されたC1~8アルキル 基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表 わすか、 R^{121} と R^{122} 、 R^{129} と R^{130} 、R137 とR138 は一緒になって、1) C2~6アルキレ ン基、2)- (C2~6アルキレン基)-O- (C2~6 アルキレン基) -、3)- (C2~6アルキレン基) -S - (C2~6アルキレン基) -、または4)- (C2~6 アルキレン基) $-NR^{202}$ $-(C2\sim6 アルキレン$ 基) - を表わし、R²⁰² は、水素原子、C1~8アル キル基、フェニル基、フェニル基によって置換されたC 1~8アルキル基を表わし、R¹³¹ 、R¹³³ 、およ びR135 はそれぞれ独立して、1) C1~8アルキル 基、2) C 2~8アルケニル基、3) C 2~8アルキニル 基、4) Сус4、または5) Сус4、ハロゲン原子、- OR^{148} $\sqrt{-SR^{149}}$ $\sqrt{-COOR^{150}}$ \sqrt{s} -NHCOR¹⁴¹ によって置換されたC1~8アルキ ル基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニル基を 表わし、R¹⁴¹ は1)C1~8アルキル基、2)C2~8 アルケニル基、3) C 2 ~ 8 アルキニル基、4) C y c 4、 または5) Сус 4によって置換されたС1~8アルキル 基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表 わし、R¹⁴⁸ ~ R¹⁵⁰ はそれぞれ独立して、1) 水素 原子、2) C1~8アルキル基、3) C2~8アルケニル 基、4) C 2~8アルキニル基、5) C y c 4、または6) C y c 4によって置換されたC1~8アルキル基、C2~ 8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表わし、Cy c 4 はCy c 1 と同じ意味を表わし、Cy c 4 は 1 ~ 5 個のR¹⁴⁴ によって置換されていてもよく、R¹⁴⁴

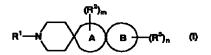
は R^{51} と同じ意味を表わし、mは $0\sim5$ を表わし、nは $0\sim5$ を表わす。] で示されるスピロ複素環誘導体、それらの四級アンモニウム塩、それらのN-オキシドまたはそれらの非毒性塩。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、スピロ複素環誘導体、およびそれらを有効成分として含有する薬剤に関する。さらに詳しくは、一般式(I)

【化3】



(式中、すべての記号は後記と同じ意味を表わす。)で示されるスピロ複素環誘導体、それらの四級アンモニウム塩、それらのNーオキシド、それらの非毒性塩、それらの製造方法、およびそれらを有効成分として含有する薬剤に関する。

[0002]

【発明の背景および従来技術】ケモカインは、内因性の白血球走化性、活性化作用を有し、ヘパリン結合性の強い、塩基性蛋白質として知られている。現在では、ケモカインは、炎症、免疫反応時の特異的白血球の浸潤を制御するのみならず、発生、生理的条件下でのリンパ球のホーミング、血球前駆細胞、体細胞の移動にも関わると考えられている。血球細胞は種々のサイトカインによって、その分化、増殖、細胞死が制御されている。生体内において炎症は局所的にみられ、リンパ球の分化、成熟等はある特定の部位で行なわれている。すなわち、必要とされる種々の細胞が、ある特定の部位に移動し、集積して、一連の炎症、免疫反応が起こる。従って、細胞の分化、増殖、死に加えて、細胞の移動も免疫系にとって必要不可欠な現象である。

【0003】生体内での血球細胞の移動は、まず、発生 過程において、AGM領域に始まる造血が胎児肝を経 て、骨髄での永久造血へと移行することから始まる。更 に、胎児肝、骨髄から胸腺へと、T細胞、胸腺樹状細胞 の前駆細胞が移動し、胸腺環境下で細胞分化する。クロ ーン選択を受けたT細胞は、二次リンパ組織へ移動し、 末梢における免疫反応に関与する。抗原を捕らえて、活 性化、分化した皮膚のランゲルハンス細胞は、局所リン パ節のT細胞領域に移動し、樹状突起細胞としてナイー ブT細胞を活性化する。メモリーT細胞はリンパ管、血 管を経て、再びリンパ節にホーミングする。また、B細 胞、腸管上皮内T細胞、γδT細胞、NKT細胞、樹状 細胞は、骨髄より胸腺を経ずに移動、分化し、免疫反応 に関与する。ケモカインは、このような種々の細胞の移 動に深く関与している。例えば、MIP3β、SLCと その受容体であるCCR7は、抗原を捕らえた成熟樹状 50 細胞が、ナイーブT細胞およびメモリーT細胞と効率良く出会うために、これらの細胞の局所リンパ組織への移動、ホーミングにおいて重要な働きをしている。SLCの発現に欠損があるPLTマウスの二次リンパ節には、抗原特異的な免疫反応を司るために必要なT細胞、並びに樹状細胞がほとんど観察されない[J. Exp.Med., 189(3), 451 (1999)]。

【0004】MDC、TARCとその受容体であるCC R4は、Th2細胞の関わる免疫、炎症反応において、 Th2細胞の局所への移動に重要な働きをしている。ラ ット劇症肝炎モデル (P.acnes+LPS) において、抗 TARC抗体は、血中ALT量の上昇、および肝臓中T NFα、FasLの発現量の上昇を抑制し、更にラット 致死率を改善した [J. Clin. Invest., 102, 1933 (199 8)]。また、マウスOVA誘発気道過敏性モデルにお いて、抗MDC抗体は肺間質に集積する好酸球数を減ら し、気道過敏性を抑制した [J. Immunology, 163, 403 (1999)]。MCP-1とその受容体であるCCR2は、 マクロファージの炎症部位への浸潤に関与している。抗 MCP-1抗体は、ラット抗Thv1. 1抗体腎炎モデ ルにおいて、糸球体への単球、マクロファージの浸潤に 対する抑制効果を示した [Kidney Int., <u>51</u>, 770 (199 7)]。このように、ケモカイン受容体は、種々の特異的 な細胞において、ある特定した時期に発現し、そのエフ ェクター細胞がケモカインの産生される個所に集積する というメカニズムを通じて、炎症、免疫反応の制御に大 きく関与している。

【0005】ヒト免疫不全ウィルス(以下、HIVと略 する。) 感染によって引き起こされる後天性免疫不全症 候群(エイズ(AIDS)と呼ばれている。)は、近年 最もその治療法を切望されている疾患の一つである。主 要な標的細胞であるCD4陽性細胞にHIVの感染が一 度成立すると、HIVは患者の体内で増殖をくり返し、 やがては免疫機能を司るT細胞を壊滅的に破壊する。こ の過程で徐々に免疫機能が低下し、発熱、下痢、リンパ 節の腫脹等の様々な免疫不全状態を示すようになり、カ リニ肺炎等の種々の日和見感染症を併発し易くなる。こ のような状態がエイズの発症であり、カボジ肉腫等の悪 性腫瘍を誘発し、重篤化することはよく知られている。 現在エイズに対する各種の予防、治療方法としては、例 えば、(1)逆転写酵素阻害剤やプロテアーゼ阻害剤の 投与によるHIVの増殖抑制、(2)免疫賦活作用のあ る薬物の投与による日和見感染症の予防、緩和等が試み られている。HIVは、免疫系の中枢を司るヘルパーT 細胞に主に感染する。その際、T細胞の膜上に発現して いる膜蛋白CD4を利用することは、1985年より知 られている [Cell, 52, 631 (1985)]。CD4分子は 433個のアミノ酸残基からなり、成熟ヘルパーT細胞 以外にマクロファージ、一部のB細胞、血管内皮細胞、 皮膚組織のランゲルハンス細胞、リンパ組織にある樹状 細胞、中枢神経系のグリア細胞等で発現が見られる。しかし、CD4分子のみではHIVの感染が成立しないことが明らかになるにつれて、HIVが細胞に感染する際にかかわるCD4分子以外の因子の存在の可能性が、示唆されるようになった。

【0006】1996年になって、CD4分子以外のH IV感染にかかわる因子としてFusinという細胞膜蛋白 が同定された [Science, 272, 872 (1996)]。このFusi n分子は、ストローマ細胞由来因子-1 (Stromal Deriv ed Factor-1:SDF-1と略する。) の受容体(すな わち、CXCR4である)であることが証明された。更 に、インビトロでSDF-1が、T細胞指向性(X4) HIVの感染を特異的に抑制することも証明された [Na ture. 382, 829 (1996), Nature. 382, 833 (1996)]. すなわち、SDF-1がHIVより先にCXCR4に結 合することによって、HIVが細胞に感染するための足 掛かりを奪い、HIVの感染が阻害されたと考えられ る。また同じ頃、別のケモカイン受容体であり、RAN TES、MIP-1α、MIP-1βの受容体であるC CR5も、マクロファージ指向性(R5) HIVが感染 20 する際に利用されることが発見された [Science, 272, 1955 (1996)]。従って、HIVとCXCR4やCCR 5を奪い合うことのできるもの、あるいはHIVウイル スに結合し、該ウイルスがCXCR4やCCR5に結合 できない状態にさせるものは、HIV感染阻害剤となり 得るはずである。また当初、HIV感染阻害剤として発 見された低分子化合物が、実はCXCR4のアンタゴニ ストであることが示された例もある [Nature Medicine, 4, 72 (1998)] 。

【0007】以上から、ケモカイン/ケモカイン受容体は、炎症、免疫疾患またはHIV感染に深く関与していると考えられる。例えば、各種炎症性疾患、喘息、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー疾患(アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、アレルギー性好酸球性胃腸症等)、腎炎、腎症、肝炎、関節炎、慢性関節リウマチ、乾癬、鼻炎、結膜炎、虚血再灌流傷害の抑制、多発性硬化症、潰瘍性大腸炎、急性呼吸窮迫症候群、細菌感染に伴うショック、糖尿病、自己免疫疾患の治療、移植臓器拒絶反応、免疫抑制、癌転移予防、後天性免疫不全症候群に関与していると考えられる。

【0008】一方、W097/11940号明細書には、一般式(Z)

[
$$(\mathbb{R}^{4})$$
]
 $\mathbb{Q}^{\mathbb{Z}}$
 $\mathbb{Q}^{\mathbb{Z}}$

【0009】 (式中、A^{iZ} およびB^{jZ} はそれぞれ別 50

個に炭素、窒素、酸素または硫黄から選ばれ(ただし、 A^{iz} の少なくとも1個の原子は炭素であり、かつ少なくとも1個の B^{jz} は炭素である。); A^{iz} および B^{jz} によって形成されるスピロ二環は、それぞれ場合によって部分的に不飽和であってもよく、 p^z および q^z はそれぞれ別個に2から6までの数であり、 m^z は0から p^z までの数であり、 R^{10z} は同じかまたは異なっており、水素、アルキル、ハロ置換アルキル、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル、=0、=S等からそれぞれ別個に選ばれる非干渉性置換基であり、nzは0からqzまでの数であり、nzは同じかまたは異なっており、水素、アルキル、ハロ置換アルキル、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル、=0、=S等からそれぞれ別個に選ばれる非干渉性置換基であり、=0

10

 (L^z) ーは結合であるかまたは、炭素、窒素、硫黄および酸素から選ばれる 1 個から 1 0 個の原子からなる二価の置換もしくは非置換鎖であり、 Q^z は 1 個または 2 個以上の塩基性ラジカルを含む塩基性基であり、かつ R^{3z} は 1 個または 2 個以上の酸性ラジカルを含む酸性基である。)で示される化合物が血小板凝集抑制に有用である旨の記載がある。

【0010】また、W098/25605号明細書には、一般式(Y)

【化5】

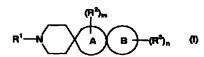
[0012]

【発明が解決しようとする課題】本発明者らは、種々のケモカイン/ケモカイン受容体の作用を制御する化合物を見出すべく鋭意検討を重ねた結果、一般式(I)で示されるスピロ複素環誘導体が、本発明の目的を達成することを見い出し、本発明を完成した。

[0013]

【課題を解決するための手段】本発明は、i)一般式

(I) 【化6】



【0014】 [式中、R¹ は、(1) 水素原子、(2) C1~18アルキル基、(3) C2~18アルケニル基、(4) C2~18アルキニル基、(5) -CO R⁶、(6) -CONR⁷ R⁸、(7) -COOR⁹、(8) -SO₂ R¹⁰、(9) -COCOOR¹¹、(10) -CONR¹² COR¹³、(11) Cyc 1、または

【0015】 (12) 任意に選ばれた $1\sim5$ 個の(a)ハロゲン原子、(b) $-\text{CONR}^7$ R^8 、(c) $-\text{COOR}^9$ 、(d) $-\text{OR}^{14}$ 、(e) $-\text{SR}^{15}$ 、(f) $-\text{NR}^{16}$ R^{17} 、(g) $-\text{NR}^{18}$ $-\text{COR}^{19}$ 、(h) $-\text{SO}_2$ N R^{20} R^{21} 、(i) $-\text{OCOR}^{22}$ 、(j) $-\text{NR}^{23}$ SO 2 R^{24} 、(k) $-\text{NR}^{25}$ $-\text{COOR}^{26}$ 、(1) $-\text{NR}^{27}$ $-\text{CONR}^{28}$ $-\text{R}^{29}$ 、(m) -Cyc 1、(n) -Cyc 1 、(o) -N (SO $_2$ $-\text{R}^{24}$) $_2$ によって置換された-CI -R -P ルキル基、-C -C -R -P -P

【0016】(6)任意に選ばれた1~5個の(a) Cyc 1、(b)ハロゲン原子、(c)-OR³⁰、(d)-S R^{31} (e) $-NR^{32}$ R^{33} (f) $-COOR^{34}$, (g) $-CONR^{35}R^{36}$, (h) $-NR^{37}COR^{38}$, (i) $-NR^{39}SO_2R^{40}$, (j) $-N(SO_2R^{40})$ 2によって置換されたC1~8アルキル基、C2~8ア ルケニル基、またはC2~8アルキニル基を表わすか、 R⁷とR⁸、R²⁰とR²¹、R²⁸とR²⁹は一緒に なって、1) C 2 ~ 6 アルキレン基、2) - (C 2 ~ 6 アル キレン基) -O- (C2~6アルキレン基) -、3)-(C2~6アルキレン基) -S-(C2~6アルキレン 基) -、または4)-(C2~6アルキレン基)-NR 195 - (C2~6アルキレン基) - を表わし、R 195 は、水素原子、C1~8アルキル基、フェニル 基、またはフェニル基によって置換されたC1~8アル キル基を表わし、

 $SO_2 R^{40}$ 、(j)-N ($SO_2 R^{40}$) $_2$ によって置換された $C1\sim8$ アルキル基、 $C2\sim8$ アルケニル基、または $C2\sim8$ アルキニル基を表わし、 $R^{30}\sim R^{37}$ および R^{39} はそれぞれ独立して、水素原子、 $C1\sim8$ アルキル基、Cyc1、またはCyc1によって置換された $C1\sim8$ アルキル基を表わすか、 R^{35} と R^{36} は一緒になって、1) $C2\sim6$ アルキレン基、2) - ($C2\sim6$ アルキレン基)-0 ($C2\sim6$ アルキレン基)-0

6アルキレン基) -O-(C2~6アルキレン基)-、3)-(C2~6アルキレン基)-S-(C2~6アルキレン基)-S-(C2~6アルキレン基)-、または4)-(C2~6アルキレン基)-NR¹⁹⁶-(C2~6アルキレン基)-を表わし、

【0019】R⁵¹ は、(1)C1~8アルキル基、(2)C 2~8アルケニル基、(3)C2~8アルキニル基、(4)ハロゲン原子、(5)ニトロ基、(6)トリフルオロメチル基、 (7)トリフルオロメトキシ基、(8)シアノ基、(9)ケト 基、(10)Cyc2

【0020】(11) - OR⁵²、(12) - SR⁵³、(13) - NR⁵⁴ R⁵⁵、(14) - COOR⁵⁶、(15) - CONR⁵⁷ R⁵⁸、(16) - NR⁵⁹ COR⁶⁰、(17) - SO² NR⁶¹ R⁶²、(18) - OCOR⁶³、(19) - NR⁶⁴ SO₂ R⁶⁵、(20) - NR⁶⁶ COOR⁶⁷、(21) - NR⁶⁸ CONR⁶⁹ R⁷⁰、(22) - B(OR⁷¹)2、(23) - SO₂ R⁷²、(24) - N(SO₂ R⁷²)2、または

【0021】(25)任意に選ばれた $1\sim5$ 個の(a)ハロゲン原子、(b) Cyc2、(c) -OR 52 、(d) -SR 53 、(e) -NR 54 R 55 、(f) -COOR 56 、(g) -CONR 57 R 58 、(h) -NR 59 COR 60 、(i) -SO $_2$ NR 61 R 62 、(j) -OCOR 63 、(k) -NR 64 SO $_2$ R 65 、(1) -NR 66 COOR 67 、(m) -NR 68 CONR 69 R 70 、(n) -B(OR 71) $_2$ 、(o) -SO $_2$ R 72 、(p) -N(SO $_2$ R 72) $_2$ 、(q) τ +基によって置換されたC $_1$ \sim 8 τ ルキル基、C $_2$ \sim 8 τ ルキル基、C $_2$ \sim 8 τ ルキル基、C $_3$ \sim 8 τ 8 \sim 8 τ 1 はそれぞれ独立して、1) 水素原子、2) C $_1$ \sim 8 τ ルキル基、3) C $_2$ \sim 8 τ ルキニル基、4) C $_3$ \sim 8 τ ルキニル基、5) Cyc $_3$ 、または6) Cyc $_3$ \sim 0

R⁷³、一COOR⁷⁴、一NR⁷⁵ R⁷⁶ によって置換されたC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表わすか、R⁵⁷ とR⁵⁸、R⁶¹ とR⁶²、R⁶⁹ とR⁷⁰ は一緒になって、1)C2~6アルキレン基、2)ー(C2~6アルキレン基)一Oー(C2~6アルキレン基)ー、3)ー(C2~6アルキレン基)ー、または4)ー(C2~6アルキレン基)ー、または4)ー(C2~6アルキレン基)ーを表わし、

【0022】 R^{197} は、水素原子、 $C1\sim8$ アルキル 10 基、フェニル基、またはフェニル基によって置換された $C1\sim8$ アルキル基を表わし、 R^{63} 、 R^{65} 、 R^{67} および R^{72} はそれぞれ独立して、I) $C1\sim8$ アルキル基、Z) $C2\sim8$ アルケニル基、Z) $C2\sim8$ アルケニル基、Z) $C2\sim8$ アルケニル基、Z0 Z1 またはZ2 は、Z3 この Z4 によって置換された Z7 によって置換された Z9 によって置換された Z9 によって置換されを Z9 によって置換されを Z9 によって置換されを Z9 によって置換された Z9 によって置換された Z9 によって置換された Z9 によって置換されて Z9 によって置換されて Z9 によって置換されていてもよく、

 $[0023]R^{77}$ は、

- 1) C1~8アルキル基、
- 2)ハロゲン原子、
- 3) ニトロ基、
- 4) トリフルオロメチル基、
- 5)トリフルオロメトキシ基、
- 6)シアノ基、
- 7) OR^{78} ,
- 8) $-NR^{79}R^{80}$,
- 9) $COOR^{81}$,
- $10) SR^{82}$
- $11) CONR^{83} R^{84}$,
- 12) C·2~8アルケニル基、
- 13) C 2~8 アルキニル基、
- 14)ケト基、
- 15) Cyc6,
- 16) $-NR^{161}$ COR 162
- $17) SO_2 NR^{163} R^{164}$,
- 18) $OCOR^{165}$,
- 19) $-NR^{166}$ SO₂ R^{167} ,
- $20) NR^{168} COOR^{169}$,

 $[0024]21)-NR^{170}$ CONR

- 22) $SO_2 R^{173}$
- 23) -N (SO₂ R¹⁶⁷)₂,
- 24)任意に選ばれた $1\sim5$ 個の(a) ハロゲン原子、(b) OR 78 、(c) NR 79 R 80 、(d) COOR 81 、(e) SR 82 、(f) CONR 83 R 84 、(g) ケト

基、(h) C y c 6、(i) $-NR^{161}$ C O R^{162} 、(j) $-SO_2NR^{163}$ R 164 、(k) $-OCOR^{165}$ 、(1) $-NR^{166}$ S O $_2$ R 167 、(m) $-NR^{168}$ C O O R 169 、(n) $-NR^{170}$ C O N R 171 R 172 、(o) $-SO_2$ R 173 、(p) -N (S O

 $_{2}$ R¹⁶⁷) $_{2}$ によって置換されたC $_{2}$ R⁷⁸ $_{2}$ R⁸⁴ 、R¹⁶¹ $_{2}$ R¹⁶⁴ 、

 R^{166} 、 R^{168} および R^{170} ~ R^{172} はそれぞれ独立して、(a)水素原子、(b) C 1~8 T ルキル基、(c) C 2~8 T ルケニル基、(d) C 2~8 T ルキニル基、(e) C y C 6、(f) C y C 6、C 0 C 7 C 8 C 8 C 9 C 8 C 9 C 8 C 9 C 8 C 9 C 9 C 8 C 9

8アルケニル基、C2~8アルキニル基を表わすか、

【0025】 R^{83} と R^{84} 、 R^{163} と R^{164} 、 R^{171} と R^{172} は一緒になって、1) $C2\sim6$ アルキレン基、2) - ($C2\sim6$ アルキレン基) - O- ($C2\sim6$ アルキレン基) - 、3) - ($C2\sim6$ アルキレン基) - 、3) - ($C2\sim6$ アルキレン基) - 、または4) - ($C2\sim6$ アルキレン基) - 、または4) - ($C2\sim6$ アルキレン基) - NR 198 - ($C2\sim6$ アルキレン基) - を表わし、 R^{198} は、水素原子、 $C1\sim8$ アルキル基、フェニル基、またはフェニル基によって置換された $C1\sim8$ アルキル基を表わし、 R^{165} 、

 R^{167} 、 R^{169} および R^{173} はそれぞれ独立して、(a) $C1\sim8$ アルキル基、(b) $C2\sim8$ アルケニル基、(c) $C2\sim8$ アルキニル基、(d) Cyc6、または(e) Cyc6、 $-OR^{174}$ 、 $-COOR^{175}$ 、-N R^{176} R^{177} 、 $-CONR^{178}$ R^{179} によって 置換された $C1\sim8$ アルキル基、 $C2\sim8$ アルケニル 其 $C2\sim8$ アルケニル

基、 $C2\sim8$ アルキニル基を表わし、 $R^{174}\sim R^{177}$ はそれぞれ独立して、1) 水素原子、2) $C1\sim8$ アルキル基、3) Cyc6、または4) Cyc6によって置換された $C1\sim8$ アルキル基を表わすか、

【0026】R¹⁷⁸ とR¹⁷⁹ は一緒になって、1)C 2~6アルキレン基、2)-(C2~6アルキレン基)-O-(C2~6アルキレン基)-、3)-(C2~6アル キレン基)-S-(C2~6アルキレン基)-、または 4)-(C2~6アルキレン基)-NR¹⁹⁹-(C2~ 40 6アルキレン基)ーを表わし、R¹⁹⁹は、水素原子、 C1~8アルキル基、フェニル基、またはフェニル基に よって置換されたC1~8アルキル基を表わし、Cyc 6は、C3~8の単環式炭素環または1~4個の窒素原 子、1~2個の酸素原子および/または1~2個の硫黄 原子を含む3~8員の単環式複素環を表わし、Cyc6 は1~5個のR¹⁸⁰によって置換されていてもよく、 R¹⁸⁰は、(1)C1~8アルキル基、(2)ハロゲン原 子、(3)ニトロ基、(4)トリフルオロメチル基、(5)トリ フルオロメトキシ基、

50 【0027】(6)シアノ基、(7)-OR¹⁸¹ 、(8)-N

 R^{182} R^{183} 、(9) $-COOR^{184}$ 、(10) $-SR^{185}$ 、または(11) $-CONR^{186}$ R^{187} を表わし R^{181} $\sim R^{187}$ はそれぞれ独立して、1) 水素原子、2) $C1\sim 8$ アルキル基、3) フェニル基、または4) フェニル基によって置換された $C1\sim 8$ アルキル基を表わすか、 R^{182} と R^{183} 、 R^{186} と R^{187} は一緒になって、1) $C2\sim 6$ アルキレン基、2) $-(C2\sim 6$ アルキレン基) $-C2\sim 6$ アルキル基、フェニル基によって置換された $-C2\sim 6$ アルキル基を表わし、

【0028】 【化7】



は、A環とB環が(i)共有原子2個で結合する縮合二環、または(ii)スピロ結合するスピロ環を表わし、A環は(i)C5、6の飽和あるいは一部飽和の炭素環、または(ii)窒素原子、酸素原子あるいは硫黄原子から選ばれる $1\sim3$ 個のヘテロ原子を含有する5または(i)C4 \sim 7の飽和あるいは一部飽和の炭素環は(i)C4 \sim 7の飽和あるいは一部飽和の炭素環、または(ii)窒素原子、酸素原子あるいは硫黄原子から選ばれる $1\sim3$ 個のヘテロ原子を含有する $4\sim7$ 員の飽和あるいは一部飽和の複素環を表わし、

【0029】R²は、(1)ケト基、(2)チオケト 基、(3) C1~8アルキル基、(4) C2~8アルケ ニル基、(5) C 2~8アルキニル基、(6) -OR 90 、 (7) Cyc3、または(8) 任意に選ばれた1 ~5個の(a)ハロゲン原子、(b)-OR⁹⁰、(c)-SR $^{9.1}$, (d) $-NR^{9.2}$ $R^{9.3}$, (e) $-COOR^{9.4}$, (f) $-CONR^{95}R^{96}$ (g) $-NR^{97}COR^{98}$ (h) $-\,S\,O_{\,2}\,\,N\,R^{\,9\,9}\,\,R^{\,1\,0\,0}$, (i) $-\,O\,C\,O\,R^{\,1\,0\,1}$, (j) $-NR^{102}$ SO₂ R^{103} , (k) $-NR^{104}$ COO R^{105} , (1) $-NR^{106}$ CONR¹⁰⁷ R^{108} , (m) C y c 3、(n) ケト基、(o) - N (SO₂ R¹⁰³) 2によって置換されたC1~8アルキル基、C2~8ア ルケニル基またはC2~8アルキニル基を表わし、R 90 \sim R^{100} , R^{102} , R^{104} \sharp \sharp \sharp \sharp \sharp \sharp \sharp R¹⁰⁸ はそれぞれ独立して、1)水素原子、2) C1~8 アルキル基、3) C 2~8アルケニル基、4) C 2~8アル キニル基、5) Сус3、または6) Сус3によって置換 されたC1~8アルキル基、C2~8アルケニル基、C 2~8アルキニル基を表わすか、

【0030】 R^{95} と R^{96} 、 R^{99} と R^{100} 、 R^{107} と R^{108} は一緒になって、1) $C2\sim6$ アルキレ 50

ン基、2) - (C2 \sim 6アルキレン基) -O- (C2 \sim 6 アルキレン基) -、3) - (C2 \sim 6アルキレン基) -S - (C2 \sim 6アルキレン基) -、または4)- (C2 \sim 6 アルキレン基) -NR 201 - (C2 \sim 6アルキレン基) -NR 201 - (C2 \sim 6アルキレン基) -を表わし、R 201 は、水素原子、C1 \sim 8アルキル基、フェニル基、またはフェニル基によって置換されたC1 \sim 8アルキル基を表わし、R 101 、R 103 およびR 105 はそれぞれ独立して、1)C1 \sim 8アルキル基、2)C2 \sim 8アルケニル基、3)C2 \sim 8アルキニル基、または4)Cyc3 またはCyc3によって置換されたC1 \sim 8アルキル基、C2 \sim 8アルキニル基を表わし、Cyc3はCyc1と同じ意味を表わし、Cyc3は1 \sim 5個のR 109 によって置換されていてもよく、R 109 はR 51 と同じ意味を表わし、

【0031】R³は、(1) C1~8アルキル基、(2) C2~8アルケニル基、(3) C2~8アルキニル基、(4) -COOR¹²⁰ 、(5) -CONR¹²¹ R¹²² 、(6) Cyc4、(7) -O R¹²³ 、(8) -COR¹³¹ 、(9) -SO₂ R¹³³ 、または(10)任意に選ばれた1~5個の(a) ハロゲン原子、(b)シアノ基、(c)Cyc4、(d)-COOR¹²⁰ 、(e) -CONR¹²¹ R¹²² 、(f) -OR¹²³ 、(g) -SR¹²⁴ 、(h) -NR¹²⁵ R¹²⁶ 、(i) -NR¹²⁷ COR¹²⁸ 、(j) -SO₂ NR¹²⁹ R¹³⁰ 、(k) -OCOR¹³¹ 、(1) -NR¹³² SO₂ R¹³³ 、(m) -NR¹³⁴ COOR¹³⁵ 、(n) -N R¹³⁶ CONR¹³⁷ R¹³⁸ 、(o) ケト基によって 置換されたC1~8アルキル基、C2~8アルケニル 基、またはC2~8アルキニル基を表わし、

 $[0032]R^{120} \sim R^{130}$, R^{132} , R¹³⁴ 、およびR¹³⁶ ~R¹³⁸ はそれぞれ独立し て、1)水素原子、2)C1~8アルキル基、3)C2~8ア ルケニル基、4) C 2 ~ 8 アルキニル基、5) C y c 4、ま たは6) Cyc4、ハロゲン原子、-OR¹⁴⁸ 、-SR 149 $\sqrt{-COOR^{150}}$ \sqrt{sh} によって置換されたC1~8アルキル基、C2~8アル ケニル基、C2~8アルキニル基を表わすか、R121 は一緒になって、1) C 2 ~ 6 アルキレン基、2) - (C 2 ~6アルキレン基) -O- (C2~6アルキレン基) -、3)- (C2~6アルキレン基) -S- (C2~6ア ルキレン基) -、または4)- (C2~6アルキレン基) $-NR^{202}$ - (C2~6アルキレン基) -を表わし、 R²⁰² は、水素原子、C1~8アルキル基、フェニル 基、フェニル基によって置換されたC1~8アルキル基

【0033】 R^{131} 、 R^{133} 、および R^{135} はそれぞれ独立して、1) $C1\sim8$ アルキル基、2) $C2\sim8$ アルケニル基、3) $C2\sim8$ アルキニル基、4)Cyc4、ま

たは5) C y c 4、ハロゲン原子、 $-OR^{148}$ 、 $-SR^{149}$ 、 $-COOR^{150}$ 、または $-NHCOR^{141}$ によって置換されたC $1 \sim 8$ アルキル基、C $2 \sim 8$ アルケニル基、C $2 \sim 8$ アルキル基、C $2 \sim 8$ アルキル基、C $2 \sim 8$ アルキール基を表わし、C $1 \sim 10$ によって置換されたC $1 \sim 10$ の C $1 \sim 10$ の C

【0034】 R^{144} は R^{51} と同じ意味を表わし、m は $0\sim5$ を表わし、n は $0\sim5$ を表わす。〕で示されるスピロ複素環誘導体、それらの四級アンモニウム塩、それらのN- オキシドまたはそれらの非毒性塩、

i i) それらの製造方法、および

i i i) それらを有効成分として含有する薬剤に関する。

【0035】本発明において、C1~8アルキル基と は、メチル、エチル、プロピル、ブチル、ペンチル、ヘ キシル、ヘプチル、オクチル基およびそれらの異性体を 表わす。C1~18アルキル基とは、メチル、エチル、 プロピル、ブチル、ペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オ クチル、ノニル、デシル、ウンデシル、ドデシル、トリ デシル、テトラデシル、ペンタデシル、ヘキサデシル、 ヘプタデシル、オクタデシル基およびそれらの異性体を 30 表わす。С2~8アルケニル基とは、1~4個の二重結 合を有しているC2~8アルキル基を意味する。例え ば、ビニル、プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキ セニル、ヘプテニル、オクテニル、ブタジエニル、ペン タジエニル、ヘキサジエニル、ヘプタジエニル、オクタ ジエニル、ヘキサトリエニル、ヘプタトリエニル、オク タトリエニル基およびこれらの異性体基等が挙げられ る。

【0036】C2~18アルケニル基とは、1~9個の二重結合、好ましくは1~4個の二重結合を有しているC2~18アルキル基を意味する。例えば、ビニル、プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニル、ヘプテニル、オクテニル、ノネニル、デセニル、ウンデセニル、ドデセニル、トリデセニル、テトラデセニル、オクタデセニル、ヘキサデセニル、ペンタジエニル、オクタデセニル、ブタジエニル、ペンタジエニル、ハナジエニル、ヘプタジエニル、ウンデカジエニル、ドデカジエニル、トリデカジエニル、テトラデカジエニル、ペンタデカジエニル、ヘキサデカジエニル、ヘプタデカジエニ

ル、オクタデカジエニル、ヘキサトリエニル、ヘプタトリエニル、オクタトリエニル、ノナトリエニル、デカトリエニル、ウンデカトリエニル、ドデカトリエニル、トリデカトリエニル、テトラデカトリエニル、ペンタデカトリエニル、ヘキサデカトリエニル、ヘプタデカトリエニル、オクタデカトリエニル基およびこれらの異性体基等が挙げられる。

【0037】 C2~8アルキニル基とは、1~4個の三 重結合を有しているC2~8アルキル基を意味する。例 えば、エチニル、プロピニル、ブチニル、ペンチニル、 ヘキシニル、ヘプチニル、オクチニル、ブタジイニル、 ペンタジイニル、ヘキサジイニル、ヘプタジイニル、オ クタジイニル、ヘキサトリイニル、ヘプタトリイニル、 オクタトリイニル基およびこれらの異性体基等が挙げら れる。C2~18アルキニル基とは、1~9個の三重結 合、好ましくは1~4個の三重結合を有しているC2~ 18アルキル基を意味する。例えば、エチニル、プロピ ニル、ブチニル、ペンチニル、ヘキシニル、ヘプチニ ル、オクチニル、ノニニル、デシニル、ウンデシニル、 ドデシニル、トリデシニル、テトラデシニル、ペンタデ シニル、ヘキサデシニル、ヘプタデシニル、オクタデシ ニル、ブタジイニル、ペンタジイニル、ヘキサジイニ ル、ヘプタジイニル、オクタジイニル、ノナジイニル、 デカジイニル、ウンデカジイニル、ドデカジイニル、ト リデカジイニル、テトラデカジイニル、ペンタデカジイ ニル、ヘキサデカジイニル、ヘプタデカジイニル、オク タデカジイニル、ヘキサトリイニル、ヘプタトリイニ ル、オクタトリイニル、ノナトリイニル、デカトリイニ ル、ウンデカトリイニル、ドデカトリイニル、トリデカ トリイニル、テトラデカトリイニル、ペンタデカトリイ ニル、ヘキサデカトリイニル、ヘプタデカトリイニル、 オクタデカトリイニル基およびこれらの異性体基等が挙 げられる。

【0038】ハロゲン原子とは、塩素、臭素、フッ素、 ョウ素原子が挙げられる。 C2~6アルキレン基とは、 メチレン、エチレン、トリメチレン、テトラメチレン、 ペンタメチレン、ヘキサメチレン基およびこれらの異性 体基等が挙げられる。C3~15の単環炭素環、または 二環、三環式の縮合あるいはスピロ炭素環とは、例え ば、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、 シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン、シ クロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、シク ロオクテン、シクロペンタジエン、シクロヘキサジエ ン、シクロヘプタジエン、シクロオクタジエン、ベンゼ ン、インデン、ナフタレン、インダン、テトラヒドロナ フタレン、ビシクロ[3.3.0]オクタン、ビシクロ [4.3.0] ノナン、ビシクロ[4.4.0] デカ ン、スピロ[4.4]ノナン、スピロ[4.5]デカ ン、スピロ[5.5]ウンデカン、ビシクロ[3.1. 50 1] ヘプタン、ビシクロ [3, 3, 1] -2-ヘプテ

ン、フルオレン、アントラセン等が挙げられる。

【0039】1~4個の窒素原子、1~3個の酸素原子 および/または1~3個の硫黄原子を含む3~15員の 単環複素環、または二環、三環式の縮合あるいはスピロ 複素環とは、例えば、1~4個の窒素原子、1~3個の 酸素原子および/または1~3個の硫黄原子を含む3~ 15員の単環複素環、または二環、三環式の縮合あるい はスピロ複素環アリール、またはその一部または全部が 飽和したものである。1~4個の窒素原子、1~3個の 酸素原子および/または1~3個の硫黄原子を含む3~ 15員の単環複素環、または二環、三環式の縮合あるい はスピロ複素環アリールとしては、ピロール、イミダゾ ール、トリアゾール、テトラゾール、ピラゾール、ピリ ジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、アゼピン、 ジアゼピン、フラン、ピラン、オキセピン、チオフェ ン、チアイン (チオピラン)、チエピン、オキサゾー ル、イソオキサゾール、チアゾール、イソチアゾール、 フラザン、オキサジアゾール、オキサジン、オキサジア・ ジン、オキサゼピン、オキサジアゼピン、チアジアゾー ル、チアジン、チアジアジン、チアゼピン、チアジアゼ 20 ピン、インドール、イソインドール、ベンゾフラン、イ ソベンゾフラン、ベンゾチオフェン、イソベンゾチオフ ェン、インダゾール、キノリン、イソキノリン、フタラ ジン、ナフチリジン、キノキサリン、キナゾリン、シン ノリン、ベンゾオキサゾール、ベンゾチアゾール、ベン ゾイミダゾール、ベンゾオキセピン、ベンゾオキサアゼ ピン、ベンゾオキサジアゼピン、ベンゾチエピン、ベン ゾチアアゼピン、ベンゾチアジアゼピン、ベンゾアゼピ ン、ベンゾジアゼピン、ベンゾフラザン、ベンゾチアジ アゾール、ベンゾトリアゾール、カルバゾール、アクリ 30 ジン、ジベンゾフラン、ジベンゾチオフェン環等が挙げ られる。

【0040】前記した1~4個の窒素原子、1~3個の 酸素原子および/または1~3個の硫黄原子を含む3~ 15員の単環複素環、または二環、三環式の縮合あるい はスピロ複素環で、一部または全部飽和したものとして は、ピロリン、ピロリジン、イミダゾリン、イミダゾリ ジン、ピラゾリン、ピラゾリジン、トリアゾリン、トリ アゾリジン、テトラゾリン、テトラゾリジン、ジヒドロ ピリジン、テトラヒドロピリジン、ピペリジン、ジヒド 40 ロピラジン、テトロヒドロピラジン、ピペラジン、ジヒ ドロピリミジン、テトラヒドロピリミジン、パーヒドロ ピリミジン、ジヒドロピリダジン、テトラヒドロピリダ ジン、パーヒドロピリダジン、ジヒドロアゼピン、テト ラヒドロアゼピン、パーヒドロアゼピン、ジヒドロジア ゼピン、テトラヒドロジアゼピン、パーヒドロジアゼピ ン、ジヒドロフラン、テトラヒドロフラン、ジヒドロピ ラン、テトラヒドロピラン、ジヒドロチオフェン、テト ラヒドロチオフェン、ジヒドロチアイン (ジヒドロチオ ピラン)、テトラヒドロチアイン (テトラヒドロチオピ 50 ロヘプタジエン、シクロオクタジエン、ベンゼン等が挙

ラン)、ジヒドロオキサゾール、テトラヒドロオキサゾ ール、ジヒドロイソオキサゾール、テトラヒドロイソオ キサゾール、ジヒドロチアゾール、テトラヒドロチアゾ ール、ジヒドロイソチアゾール、テトラヒドロイソチア ゾール、ジヒドロオキサジアゾール、テトラヒドロオキ サジアゾール、ジヒドロチオジアゾール、テトラヒドロ チオジアゾール、テトラヒドロオキサジアジン、テトラ ヒドロチアジアジン、テトラヒドロオキサアゼピン、テ トラヒドロオキサジアゼピン、パーヒドロオキサアゼピ ン、パーヒドロオキサジアゼピン、テトラヒドロチアア ゼピン、テトラヒドロチアジアゼピン、パーヒドロチア アゼピン、パーヒドロチアジアゼピン、モルホリン、チ オモルホリン、インドリン、イソインドリン、ジヒドロ ベンゾフラン、パーヒドロベンゾフラン、ジヒドロイソ ベンゾフラン、パーヒドロイソベンゾフラン、ジヒドロ ベンゾチオフェン、パーヒドロベンゾチオフェン、ジヒ ドロイソベンゾチオフェン、パーヒドロイソベンゾチオ フェン、ジヒドロインダゾール、パーヒドロインダゾー ル、ジヒドロキノリン、テトラヒドロキノリン、パーヒ ドロキノリン、ジヒドロイソキノリン、テトラヒドロイ ソキノリン、パーヒドロイソキノリン、ジヒドロフタラ ジン、テトラヒドロフタラジン、パーヒドロフタラジ ン、ジヒドロナフチリジン、テトラヒドロナフチリジ ン、パーヒドロナフチリジン、ジヒドロキノキサリン、 テトラヒドロキノキサリン、パーヒドロキノキサリン、 ジヒドロキナゾリン、テトラヒドロキナゾリン、パーヒ ドロキナゾリン、ジヒドロシンノリン、テトラヒドロシ ンノリン、パーヒドロシンノリン、ジヒドロベンゾオキ サゾール、パーヒドロベンゾオキサゾール、ジヒドロベ ンゾチアゾール、パーヒドロベンゾチアゾール、ジヒド ロベンゾイミダゾール、パーヒドロベンゾイミダゾー ル、ジヒドロカルバゾール、テトラヒドロカルバゾー ル、パーヒドロカルバゾール、ジヒドロアクリジン、テ トラヒドロアクリジン、パーヒドロアクリジン、ジヒド ロジベンゾフラン、ジヒドロジベンゾチオフェン、テト ラヒドロジベンゾフラン、テトラヒドロジベンゾチオフ ェン、パーヒドロジベンゾフラン、パーヒドロジベンゾ チオフェン、ジオキソラン、ジオキサン、ジチオラン、 ジチアン、ベンゾジオキサラン、ベンゾジオキサン、ベ ンゾジチオラン、ベンゾジチアン、2,4,6-トリオ キサスピロ[ビシクロ[3.3.0]オクタン-3, 1'ーシクロヘキサン]、1,3ージオキソラノ[4, 5-g] クロメン、2-オキサビシクロ[2.2.1] ヘプタン環等が挙げられる。

【0041】C3~8の単環式炭素環とは、例えば、シ クロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロ ヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン、シクロペ ンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、シクロオク テン、シクロペンタジエン、シクロヘキサジエン、シク

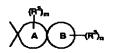
げられる。1~4個の窒素原子、1~2個の酸素原子お よび/または1~2個の硫黄原子を含む3~8員の単環 式複素環とは、例えば、1~4個の窒素原子、1~2個 の酸素原子および/または1~2個の硫黄原子を含む3 ~8員の単環式複素環アリール、またはその一部または 全部が飽和したものである。1~4個の窒素原子、1~ 2個の酸素原子および/または1~2個の硫黄原子を含 む3~8員の単環式複素環アリールとしては、ピロー ル、イミダゾール、トリアゾール、テトラゾール、ピラ ゾール、ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジ ン、アゼピン、ジアゼピン、フラン、ピラン、オキセピ ン、チオフェン、チアイン(チオピラン)、チエピン、 オキサゾール、イソオキサゾール、チアゾール、イソチ アゾール、フラザン、オキサジアゾール、オキサジン、 オキサジアジン、オキサゼピン、オキサジアゼピン、チ アジアゾール、チアジン、チアジアジン、チアゼピン、 チアジアゼピン環等が挙げられる。

【0042】前記した1~4個の窒素原子、1~2個の酸素原子および/または1~2個の硫黄原子を含む3~8員の単環式複素環で、一部または全部飽和したものとしては、ピロリン、ピロリジン、イミダゾリン、イミダゾリジン、ピラゾリン、トリアゾリン、トリアゾリン、ドリアゾリン、テトラゾリジン、デトラビドロピリジン、デトラヒドロピラジン、ピペラジン、ジヒドロピリミジン、テトラヒドロピリミジン、パーヒドロピリメジン、ジヒドロピリメジン、ジヒドロピリメジン、ジヒドロピリダジン、デトラヒドロピリダジン、ジヒドロアゼピン、テトラヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、パーヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、パーヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、パーヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、バーヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、ジヒドロアゼピン、パーヒドロアゼピン、ジロ

ジアゼピン、テトラヒドロジアゼピン、パーヒドロジア ゼピン、ジヒドロフラン、テトラヒドロフラン、ジヒド ロピラン、テトラヒドロピラン、ジヒドロチオフェン、 テトラヒドロチオフェン、ジヒドロチアイン (ジヒドロ チオピラン)、テトラヒドロチアイン(テトラヒドロチ オピラン)、ジヒドロオキサゾール、テトラヒドロオキ サゾール、ジヒドロイソオキサゾール、テトラヒドロイ ソオキサゾール、ジヒドロチアゾール、テトラヒドロチ アゾール、ジヒドロイソチアゾール、テトラヒドロイソ チアゾール、ジヒドロオキサジアゾール、テトラヒドロ オキサジアゾール、ジヒドロチオジアゾール、テトラヒ ドロチオジアゾール、テトラヒドロオキサジアジン、テ トラヒドロチアジアジン、テトラヒドロオキサアゼピ ン、テトラヒドロオキサジアゼピン、パーヒドロオキサ アゼピン、パーヒドロオキサジアゼピン、テトラヒドロ チアアゼピン、テトラヒドロチアジアゼピン、パーヒド ロチアアゼピン、パーヒドロチアジアゼピン、モルホリ ン、チオモルホリン、ジオキソラン、ジオキサン、ジチ オラン、ジチアン等が挙げられる。

【0043】式

【化8】



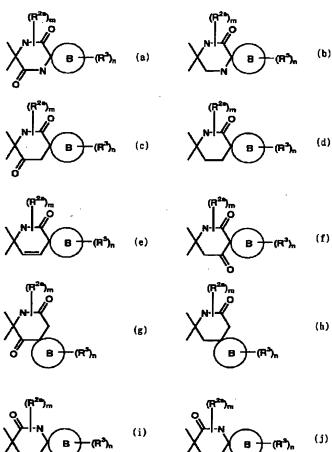
が表わす (i) 共有原子 2 個で結合する縮合二環、または (ii) スピロ結合するスピロ環としては、以下のものが挙げられる。

[0044]

【化9】

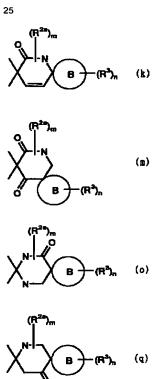
..

23



[0045]

【化10】



27

$$N$$
 $(R^{2n})_m$
 N
 (u)

$$\begin{array}{c|c}
(R^{2a})_{m} \\
O \\
B \\
(R^{3})_{n}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
O & R^{2n} \\
O & -N \\
O & R^{2n} \\$$

$$\begin{array}{c}
(R^{2^n})_m \\
O \\
B \\
-(R^2)_n
\end{array} (y)$$

$$X_{S} \xrightarrow{(R^2)_m} B \xrightarrow{(R^2)_n} (z)$$

$$\begin{array}{c}
(R^{2n})_{m} \\
O \\
B \\
(R^{2n})_{n}
\end{array}$$
(dd)

[0047]

[0048]

【化13】

29

$$R^{2n}$$
 R^{2n}
 B
 (ii)

$$N_{j}$$
 (jj)

[0049]

【化14】

31

【0051】上記基中、R^{2®} 基はケト基およびチオケト基を除くR² 基と同じ意味を表わし、その他の記号は前記と同じ意味を表わす。B環が表わすC4~7の飽和あるいは一部飽和の炭素環としては、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプテン、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、シクロペンタジエン、シクロヘキサジエン、シクロヘプタジエン等が挙げられる。

[0050]

【0052】また、B環が表わす窒素原子、酸素原子あるいは硫黄原子から選ばれる1~3個のヘテロ原子を含 50

有する4~7員の飽和あるいは一部飽和の複素環としては、ピロリン、ピロリジン、イミダゾリン、イミダゾリン、ドリアゾリン、トリアゾリン、トリアゾリジン、ドリアゾリジン、デトラヒドロピリジン、デトラヒドロピリジン、ピペリジン、ジヒドロピラジン、テトラヒドロピリミジン、パーヒドロピリメジン、テトラヒドロピリダジン、デトラヒドロピリダジン、パーヒドロアゼピン、パーヒドロジアゼピン、バーヒドロジアゼピン、ジヒドロジアゼピン、デトラヒドロジアゼピン、デトラヒドロジアゼピ

ン、パーヒドロジアゼピン、ジヒドロフラン、テトラヒ ドロフラン、ジヒドロピラン、テトラヒドロピラン、ジ ヒドロチオフェン、テトラヒドロチオフェン、ジヒドロ チアイン (ジヒドロチオピラン)、テトラヒドロチアイ ン (テトラヒドロチオピラン)、ジヒドロオキサゾー ル、テトラヒドロオキサゾール、ジヒドロイソオキサゾ ール、テトラヒドロイソオキサゾール、ジヒドロチアゾ ール、テトラヒドロチアゾール、ジヒドロイソチアゾー ル、テトラヒドロイソチアゾール、ジヒドロオキサジア ゾール、テトラヒドロオキサジアゾール、ジヒドロチオ 10 ジアゾール、テトラヒドロチオジアゾール、テトラヒド ロオキサジアジン、テトラヒドロチアジアジン、テトラ ヒドロオキサアゼピン、テトラヒドロオキサジアゼピ ン、パーヒドロオキサアゼピン、パーヒドロオキサジア ゼピン、テトラヒドロチアゼピン、テトラヒドロチアジ アゼピン、パーヒドロチアゼピン、パーヒドロチアジア ゼピン、モルホリン、チオモルホリン、ジオキソラン、 ジオキサン、ジチオラン、ジチアン等が挙げられる。

【0053】本発明において、R1基、R2基、R3基 が表わすそれぞれの基はいずれも好ましい。R1 基とし 20 ては、C1~18アルキル基、C2~18アルケニル 基、C2~18アルキニル基、Cyc1によって置換さ れたC1~18アルキル基、Cyc1によって置換され たC2~18アルケニル基、またはCyc1によって置 換されたC2~18アルキニル基が好ましく、より好ま しくは、C1~18アルキル基、またはCyc1によっ て置換されたС1~6アルキル基である。Сус1とし ては、C3~10の単環炭素環、あるいは二環式の縮合 あるいはスピロ炭素環、または1~4個の窒素原子、1 ~2個の酸素原子および/または1~2個の硫黄原子を 30 含む3~10員の単環複素環、あるいは二環式の縮合あ るいはスピロ複素環が好ましく、より好ましくは、C5 ~7の単環式炭素環アリールまたは1~4個の窒素原 子、2個の酸素原子および/または1個の硫黄原子を含 む5~10員の単環式または二環式複素環である。

【0054】具体的にCyc1としては、ベンゼン環、ピラゾール環、イミダゾール環、フラン環、チオフェン環、ベンゾジオキサン環、チアゾール環、キノリン環が好ましい。Cyc1の置換基である R^{51} としては、Cyc2、 $-OR^{52}$ 、 $-SR^{53}$ 、 $-NR^{54}$ R^{55} が 40 好ましい。 R^{52} 、 R^{53} 、 R^{54} 、 R^{55} としては、 $C1\sim8$ アルキル基、Cyc2 が好ましい。 $C1\sim8$ アルキルとしてより好ましくは、メチル、エチル、プロピルであり、Cyc2としてより好ましくは、 $C5\sim7$ の単環式炭素環アリールまたは $1\sim4$ 個の窒素原子、1 個の酸素原子および/または1 個の硫黄原子を含む $5\sim7$ 員の単環式複素環アリールであり、特に好ましくはベンゼン環である。

【0055】Cyc2の置換基である R^{77} としては、 $-COOR^{81}$ 、 $-CONR^{83}$ R^{84} 、 $-NR^{161}$

【0056】最も好ましいR1としては、フェニルエチ ル基、フェニルプロピル基、フェニルブチル基、フェニ ルペンチル基、フェニルヘキシル基、4-メトキシフェ ニルメチル基、4ープロピルオキシフェニルメチル基、 4-フェニルオキシフェニルメチル基、3、5-ジメチ ルー1-フェニルピラゾールー4-イルメチル基、2-フェニルイミダゾールー4-イルメチル基、5-エチル フラン-2-イルメチル基、5-エチルチオフェン-2 ーイルメチル基、3ークロロー5ーメチルー1ーフェニ ルピラゾールー4-イルメチル基、1,4-ベンゾジオ キサン-6イルメチル基、4-(4-メチルスルホニル アミノフェニルオキシ)フェニルメチル基、4-(4-(2-ジメチルアミノエチルスルホニルアミノ)フェニ ルオキシ)フェニルメチル基、4-(4-ジメチルアミ ノスルホニルフェニルオキシ)フェニルメチル基、4-(4-メチルカルボニルアミノフェニルオキシ)フェニ ルメチル基、4-(4-(2-ジメチルアミノエチルカ ルボニルアミノ)フェニルオキシ)フェニルメチル基、 4-(4-ジメチルアミノカルボニルフェニルオキシ) フェニルメチル基、4-(4-カルボキシフェニルオキ シ) フェニルメチル基等が挙げられる。

【0057】R²としては、ケト基、チオケト基、C1 ~8アルキル基、C2~8アルケニル基、C2~8アル キニル基、Cyc3、またはCyc3あるいは-OR 90 基によって置換されたC1~8アルキル基が好まし い。より好ましくは、ケト基、チオケト基、C1~4ア ルキル基、C2~4アルケニル基、C2~4アルキニル 基、Cyc3、またはCyc3あるいは-OR90 基に よって置換されたC1~4アルキル基である。最も好ま しいR²としては、ケト基、チオケト基、エチル基、プ ロピル基、2-メチルプロピル基、ブチル基、2-プロ ペニル基、2-ブテニル基、2-プロピニル基、2-ブ チニル基、フェニルメチル基、フェニルエチル基、ジフ ェニルエチル基、2-フリルメチル基、2-チエニルメ チル基、2-テトラヒドロフリルメチル基、2-テトラ ヒドロチエニルメチル基、1-ベンジルピロリジニル 50 基、1-ベンジルピペリジニル基、2-(インドールー

3-イル) エチル基、2-メトキシエチル基等が挙げられる。

【0058】 R^3 としては、 $C1\sim8$ アルキル基、-O R^{123} 、 $-COR^{131}$ 、 $-SO_2$ R^{133} 、または Cyc4によって置換された $C1\sim8$ アルキル基が好ましい。最も好ましい R^3 としては、メチル基、エチル 基、プロピル基、2- メチルプロピル基、ブチル基、水酸基、ベンジルオキシ基、メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、2- メチルプロポキシ基、ブトキシ基、ベンジル基、シクロペンチルメチル基が挙げられる。

【0059】本発明においては、特に指示しない限り異性体はこれをすべて包含する。例えば、アルキル基、アルコキシ基およびアルキレン基には直鎖のものおよび分枝鎖のものが含まれる。さらに、二重結合、環、縮合環における異性体(E、Z、シス、トランス体)、不斉炭素の存在等による異性体(R、S体、 α 、 β 体、エナンチオマー、ジアステレオマー)、旋光性を有する光学活性体(D、L、d、1体)、クロマトグラフ分離による極性体(高極性体、低極性体)、平衡化合物、これらの任意の割合の混合物、ラセミ混合物は、すべて本発明に 20 含まれる。

【0060】[塩]本発明においてはすべての非毒性塩を包含する。例えば、一般的な塩、酸付加塩、水和物塩等が挙げられる。一般式(I)で示される本発明化合物は、公知の方法で相当する塩に変換することができる。塩は毒性のない、水溶性のものが好ましい。適当な塩としては、アルカリ金属(カリウム、ナトリウム等)の塩、アルカリ土類金属(カルシウム、マグネシウム等)の塩、アンモニウム塩、薬学的に許容される有機アミン(テトラメチルアンモニウム、トリエチルアミン、メチのルアミン、ジメチルアミン、シクロペンチルアミン、ベンジルアミン、ジエタノールアミン、ピペリジン、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリス(ヒドロキシメチル)アミン、リジン、アルギニン、NーメチルーDーグルカミン等)の塩が挙げられる。

【0061】一般式(I)で示される本発明化合物は、公知の方法で相当する酸付加塩に変換することができる。酸付加塩は毒性のない、水溶性のものが好ましい。適当な酸付加塩としては、塩酸塩、臭化水素酸塩、硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩のような無機酸塩、または酢酸塩、トリフルオロ酢酸塩、乳酸塩、酒石酸塩、シュウ酸塩、フマル酸塩、マレイン酸塩、クエン酸塩、安息香酸塩、メタンスルホン酸塩、エタンスルホン酸塩、イセチオン酸塩、メタンスルホン酸塩、ドルエンスルホン酸塩、イセチオン酸塩、グルクロン酸塩、グルコン酸塩のような有機酸塩が挙げられる。また、一般式(I)で示される本発明化合物またはその塩は、公知の方法により、水和物に変換することもできる。

【0062】一般式(I)で示される化合物またはそれらの非毒性塩はすべて好ましい。具体的には、実施例に 50

記載した化合物またはそれらの非毒性塩が挙げられる。一般式(I)で示される化合物の四級アンモニウム塩とは、一般式(I)で示される化合物の窒素原子が、 R^0 基によって四級化されたものを表わす。 R^0 基は、C1 ~ 8 アルキル基、フェニル基によって置換された $C1 \sim 8$ アルキル基を表わす。一般式(I)で示される化合物のN- オキシドとは、一般式(I)で示される化合物の窒素原子が、酸化されたものを表わす。

36

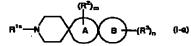
[0063]

【本発明化合物の製造方法】一般式(I)で示される本 発明化合物は、以下の方法または実施例に記載した方法 で製造できる。

(1) (a) 一般式 (I) で示される化合物中、 R^1 が 水素以外の基を表わす化合物、すなわち一般式 (I-a)

[0064]

【化16】



(式中、 R^{1a} は R^{1} が表わす基中、水素以外の基を表わし、その他の記号は前記と同じ意味を表わす。)で示される化合物は、一般式 (II)

[0065]

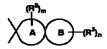
【化17】



(式中、RªおよびRbは、環化反応によって、

[0066]

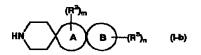
【化18】



を形成する基であり、その他の記号は前記と同じ意味を 表わす。) で示される化合物を環化反応に付すことによ って製造することができる。

【0067】この環化反応は公知であり、例えば、有機溶媒(トルエン、ジクロロメタン、ジクロロエタン等)中、酸(酢酸、トリフルオロ酢酸、塩酸、pートルエンスルホン酸等)あるいは塩基(トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、リチウムジイソプロピルアミド等)の存在下または非存在下において、−10~120℃で反応することにより行われる。また必要であれば、この反応に引き続いて公知の還元、酸化または脱水反応を行ってもよい。さらに必要であれば、これら反応に引き続いて公知の方法によって、目的の非毒性塩に変換する操作を行なってもよい。

【0068】(b) 一般式(I) で示される化合物中、R^I が水素である化合物、すなわち一般式(I-b) 【化19】



【0069】(式中、すべての記号は前記と同じ意味を表わす。)で示される化合物は、上記の一般式(I-a)で示される化合物中、 R^{1a} がアミノ基の保護基である化合物を脱保護反応に付すことにより製造することができる。

【0070】アミノ基の保護基としては、例えばベンジ 10 ル基、ベンジルオキシカルボニル基、アリルオキシカルボニル基、トリフルオロアセチル基等が挙げられる。アミノ基の保護基としては、上記した以外にも容易にかつ選択的に脱離できる基であれば特に限定されない。例えば、T. W. Greeneら、Protective Groups inOrganic Synthesis、Third Edition、Wiley-Interscience、New York、1999に記載されたものが用いられる。

【0071】このアミノ基の脱保護反応は公知であり、例えば、(1)アルカリ加水分解、(2)酸性条件下に 20 おける脱保護反応、(3)加水素分解による脱保護反応、(4)金属錯体を用いる脱保護反応、これらの方法を具体的に説明すると、

【0072】(1)アルカリ加水分解による脱保護反応 (例えば、トリフルオロアセチル基)は、例えば、有機 溶媒(メタノール、テトラヒドロフラン、ジオキサン 等)中、アルカリ金属の水酸化物(水酸化ナトリウム、 水酸化カリウム、水酸化リチウム等)、アルカリ土類金 属の水酸化物(水酸化バリウム、水酸化カルシウム等) または炭酸塩(炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等)ある 30 いはその水溶液もしくはこれらの混合物を用いて、0~ 40℃の温度で行なわれる。

(2)酸条件下での脱保護反応(例えば、tーブトキシカルボニル基)は、例えば、有機溶媒(ジクロロメタン、クロロホルム、ジオキサン、酢酸エチル、アニソール等)中、有機酸(酢酸、トリフルオロ酢酸、メタンスルホン酸等)、または無機酸(塩酸、硫酸等)もしくはこれらの混合物(臭化水素/酢酸等)中、0~100℃の温度で行なわれる。

【0073】(3)加水素分解による脱保護反応(例え 40 ば、ベンジル基、ベンジルオキシカルボニル基、アリルオキシカルボニル基)は、例えば、溶媒(エーテル系 (テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチルエーテル等)、アルコール系 (メタノール、エタノール等)、ベンゼン系 (ベンゼン、トルエン等)、ケトン系 (アセトン、メチルエチルケトン等)、ニトリル系 (アセトン、メチルエチルケトン等)、ニトリル系 (アセトン、メチルエチルケトン等)、ホ、酢酸エチル、酢酸またはそれらの2以上の混合溶媒等)中、触媒 (パラジウムー炭素、パラジウム黒、水酸化パラジウムー炭素、酸化白金、ラ 50

ネーニッケル等)の存在下、常圧または加圧下の水素雰囲気下またはギ酸アンモニウム存在下、0~200℃の温度で行なわれる。

38

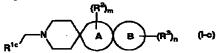
(4)金属錯体を用いる脱保護反応は、例えば、有機溶媒(ジクロロメタン、ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等)中、トラップ試薬(水素化トリブチルスズ、ジメドン等)および/または有機酸(酢酸等)の存在下、金属錯体(テトラキストリフェニルホスフィンパラジウム(0)錯体等)を用いて、0~40℃の温度で行なわれる。

【0074】また、一般式 (I) で示される本発明化合物は、以下の $(c) \sim (j)$ に示した方法によっても製造することができる。

(c) 一般式 (I) のうち、 R^1 が、 $C1\sim 18$ アルキル基、 $C2\sim 18$ アルケニル基、 $C2\sim 18$ アルキニル基または種々の置換基によって置換された $C1\sim 18$ アルキル基、 $C2\sim 18$ アルケニル基、 $C2\sim 18$ アルキニル基を表わし、かつ R^1 が窒素原子と $-CH_2-$ を介して結合する化合物、すなわち一般式(I-c)

[0075]

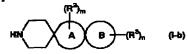
【化20】



【0076】(式中、 R^{1C} は $C1\sim17$ アルキル基、 $C2\sim17$ アルケニル基、 $C2\sim17$ アルキニル基、または任意に選ばれた $1\sim5$ 個の(a) ハロゲン原子、(b) $-CONR^7R^8$ 、(c) $-COOR^9$ 、(d) $-OR^{14}$ 、(e) $-SR^{15}$ 、(f) $-NR^{16}R^{17}$ 、(g) $-NR^{18}COR^{19}$ 、(h) $-SO_2NR^{20}R^{21}$ 、(i) $-OCOR^{22}$ 、(j) $-NR^{23}SO_2R^{24}$ 、(k) $-NR^{25}COR^{26}$ 、(1) $-NR^{27}CONR^{28}R^{29}$ 、(m) Cyc1、(n) ケト基、(o) -N (SO_2R^{24}) 2 によって置換された $C1\sim17$ アルキニル基を表わし、他の記号は、前記と同じ意味を表わす。)で示される化合物は、一般式(I-b)

[0077]

【化21】



(式中、すべての記号は前記と同じ意味を表わす。)で 示される化合物と、一般式(III)

[0078]

【化22】

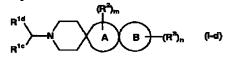
(式中、すべての記号は前記と同じ意味を表わす。) で

示される化合物を還元的アミノ化反応に付すことにより 製造することができる。

【0079】この還元的アミノ化反応は公知であり、例えば、有機溶媒(例えば、ジクロロエタン、ジクロロメタン、ジメチルホルムアミド、酢酸およびこれらの混合物等)中、還元剤(水素化トリアセトキシホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム等)の存在下、0~40℃の温度で行なわれる。また、この還元的アミノ化反応は、R¹基中の窒素原子がNーオキシドを表わす化合物においても行なうことができる。

[0081]

【化23】



(式中、 R^{1d} は、 $C1\sim17$ アルキル基、 $C2\sim17$ アルケニル基、 $C2\sim17$ アルケニル基を表わし、他の記号は前記と同じ意味を表わす。)で示される化合物は、一般式(I-b)で示される化合物と一般式(IV)

[0082]

【化24】

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物を還元的アミノ化反応に付すことによ り、製造することができる。

【0083】この還元的アミノ化反応は公知であり、例えば、有機溶媒(例えば、ジクロロエタン、ジクロロメタン、等)中、三級アミン(トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等)の存在下、ルイス酸(四塩化チタン等)を用いて、0~40℃で反応させ、さらに、還元剤(水素化トリアセトキシホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム等)の存在下、0~40℃の温度で行なわれる。

【0084】 (e) 一般式 (I) のうち、R¹が、CO R⁶を表わす化合物、すなわち一般式 (I-e)

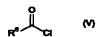
【化25】

40

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物は、一般式 (I-b) で示される化合物と一般式 (V)

[0085]

【化26】



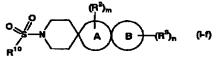
(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物をアミド化反応に付すことにより、製造することができる。

【0086】このアミド化反応は公知であり、有機溶媒(クロロホルム、ジクロロメタン、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメチルホルムアミド等)中、三級アミン(イソプロピルエチルアミン、ピリジン、トリエチルアミン、ジメチルアニリン、ジメチルアミノピリジン等)もしくはアルカリ水溶液(重曹水または水酸化ナトリウム溶液等)の存在下、0~40℃で反応させることにより行なわれる。

【0087】(f) 一般式(I) のうち、 R^1 が SO_2 R^{10} を表わす化合物、すなわち一般式(I-f)

【化27】

30



(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。)で示される化合物は、一般式 (I-b) で示される化合物と一般式 (VI)

[0088]

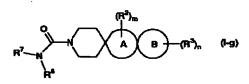
【化28】

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物をスルホンアミド化反応に付すことに より、製造することができる。

【0089】このスルホンアミド化反応は公知であり、 有機溶媒(クロロホルム、ジクロロメタン、ジクロロエ タン、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン等)中、 三級アミン(ジイソプロピルエチルアミン、ピリジン、 トリエチルアミン、ジメチルアニリン、ジメチルアミノ ピリジン等)の存在下、0~40℃で反応させることに より行なわれる。

【0090】 (g) 一般式 (I) のうち、 R^{I} がCON R^{7} R^{8} を表わす化合物、すなわち一般式 (I-g)

【化29】



(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物は、一般式(I-b)で示される化合 物と一般式(VII-1)

[0091]

【化30】

(式中、すべての記号は前記と同じ意味を表わす。) で 示される化合物または、一般式 (VII-2)

[0092]

【化31】

R7-N=C=0 (VII-2)

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物を反応させることにより製造すること ·ができる。

【0093】この一般式 (I-b) と一般式 (VII-1) との反応は公知であり、有機溶媒(クロロホルム、 ジクロロメタン、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラ ン等)中、三級アミン(イソプロピルエチルアミン、ピ リジン、トリエチルアミン、ジメチルアニリン、ジメチ ルアミノピリジン等)の存在下、0~40℃で反応させ ることにより行なわれる。この一般式(I-b)と一般 式(VII-2)との反応は公知であり、有機溶媒(クロ ロホルム、ジクロロメタン、ジクロロエタン、ジメチル ホルムアミド、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン 等)中、0~40℃で反応させることにより行なわれ

【0094】 (h) 一般式 (I) のうち、R¹ が-CH 2 - CH (OH) - R^{1h} (R^{1h} は、C1~16アル キル基、C2~16アルケニル基、C2~16アルキニ ル基または種々の置換基によって置換されたC1~16 アルキル基、C2~16アルケニル基、C2~16アル キニル基を表わす。)を表わす化合物、すなわち一般式 40 (I-h)

[0095]

【化32】

$$R^{1h}$$
 A
 B
 $(F^{2})_{n}$
 $(-h)$

【0096】 (式中、R^{1h} は、C1~16アルキル 基、C2~16アルケニル基、C2~16アルキニル基 または任意に選ばれた1~4個の(a)ハロゲン原子、(b) 50 で示される化合物を反応させることにより製造すること

 $-CONR^{7}R^{8}$, (c) $-COOR^{9}$, (d) $-OR^{14}$, (e) $-SR^{15}$, (f) $-NR^{16}R^{17}$, (g) $-NR^{18}$ COR^{19} , (h) $-SO_2NR^{20}R^{21}$, (i) -OCO $R^{\ 2\ 2}$, $(j)-N\,R^{\ 2\ 3}$ $S\,O_{\,2}$ $R^{\,2\ 4}$, $(k)-N\,R^{\,2\ 5}$ C OOR^{26} , (1) $-NR^{27}CONR^{28}R^{29}$, (m) C y c 1、(n)ケト基、(o)-N (SO₂ R²⁴) 2 によっ て置換されたによって置換されたC1~16アルキル 基、C2~16アルケニル基、C2~16アルキニル基 を表わし、他の記号は、前記と同じ意味を表わす。)で 示される化合物は、一般式(I-b)で示される化合物

42

[0097]

と一般式 (VIII)

【化33】

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物を反応させることにより製造すること ができる。この反応は公知であり、有機溶媒(メタノー ル、エタノール、2-プロパノール、テトラヒドロフラ ン、アセトニトリル等)中、三級アミン(トリエチルア ミン、N-メチルモルホリン等)の存在下または非存在 下で、40~100℃で反応させることにより行なわれ る。

【0098】 (j) 一般式 (I) のうち、R¹ がーCH 2 - C (=O) - R^{1j} (R^{1j} は、R^{1h} と同じ意味 を表わす。) を表わす化合物、すなわち一般式 (I-

[0099]

【化34】



(式中、R¹i は、R^{1h} と同じ意味を表わし、他の記 号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物 は、一般式(I-b)で示される化合物と一般式(IX -1)

[0100]

【化35】

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。) で示される化合物または、一般式 (IX-2)

[0101]

【化36】

(式中、すべての記号は、前記と同じ意味を表わす。)

ができる。

【0102】これらの反応は公知であり、有機溶媒(クロロホルム、ジクロロメタン、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメチルホルムアミド等)中、三級アミン(イソプロピルエチルアミン、ピリジン、トリエチルアミン、ジメチルアニリン、ジメチルアミノピリジン等)の存在下、0~40℃で反応させることにより行なわれる。

【0103】また、 一般式(I)で示される化合物中、基中に少なくとも1つのカルボキシル基、水酸基、アミノ基またはチオール基を含有する基有する化合物は、それぞれが相応しい保護基によって保護されたカルボキシル基、水酸基、アミノ基またはチオール基を含有する基を有する化合物を用いて上記(a)~(j)の反応を行い、引き続いて保護基の脱保護反応に付すことにより製造することができる。

【0104】カルボキシル基の保護基としては、例えばメチル基、エチル基、tーブチル基、ベンジル基、アリル基が挙げられる。水酸基の保護基としては、例えばメトキシメチル基、2ーテトラヒドロピラニル基、tーブ 20 チルジメチルシリル基、tーブチルジフェニルシリル基、アセチル基、ベンジル基が挙げられる。アミノ基の保護基としては、例えばベンジルオキシカルボニル基、アリルオキシカルボニル基、tーブトキシカルボニル基、トリフルオロアセチル基、9ーフルオレニルメトキシカルボニル基が挙げられる。

【0105】チオール基の保護基としては、例えばベンジル基、メトキシベンジル基、アセトアミドメチル基、トリフェニルメチル基、アセチル基が挙げられる。カルボキシル基、水酸基、アミノ基またはチオール基の保護 30 基としては、上記した以外にも容易にかつ選択的に脱離できる基であれば特に限定されない。例えば、T. W. Greene ら、Protective Groups in Organic Synthesis, Third Edition、Wiley-Interscience、New York、1999に記載されたものが用いられる。

【0106】アミノ基の保護基の脱保護反応は、前記した方法によって行なわれる。カルボキシル基、水酸基またはチオール基の保護基の脱保護反応は、よく知られており、例えば、(1)アルカリ加水分解、(2)酸性条件下における脱保護反応、(3)加水素分解による脱保 40 護反応、(4)シリル基の脱保護反応、(5)金属錯体を用いる脱保護反応等が挙げられる。これらの方法のうち、(1)、(2)、(3)、(5)は、前記したアミノ基の保護基の脱保護反応と同様の方法によって行なわれる。

【0107】(4)を具体的に説明すると、シリル基の 脱保護反応は、例えば、有機溶媒(テトラヒドロフラ ン、アセトニトリル等)中、テトラブチルアンモニウム フルオライドを用いて、0~40℃の温度で行なわれ る。当業者には容易に理解できることではあるが、これ 50 らの脱保護反応を使い分けることにより、目的とする本 発明化合物が容易に製造することができる。

【0108】(2)少なくとも1つの窒素原子が四級アンモニウム塩を表わす化合物は、上記で製造した一般式(I)で示される化合物と、一般式(X)

【化37】

 R^0 —Q (X)

【0109】(式中、R⁰は、C1~8アルキル基またはフェニル基によって置換されたC1~8アルキル基を表わし、Qは、ハロゲン原子を表わす。)で示される化合物を反応させることにより製造することができる。この反応は公知であり、例えば、有機溶媒(アセトン、ジメチルホルムアミド、メチルエチルケトン等)中、0~40℃の温度で行なわれる。

【0110】(3)少なくとも1つの窒素原子がNーオキシドを表わす化合物は、上記で製造した一般式(I)で示される化合物を酸化反応に付すことにより製造することができる。この酸化反応は公知であり、例えば、適当な有機溶媒(ジクロロメタン、クロロホルム、ベンゼン、ヘキサン、tーブチルアルコール等)中で、過剰の酸化剤(過酸化水素、過ヨウ素酸ナトリウム、亜硝酸アシル、過ホウ酸ナトリウム、過酸(例えば、3ークロー過安息香酸、過酢酸等)、オキソン(商品名、以下、オキソンと略記する;ポタシウムパーオキシモノスルフェート)、過マンガン酸カリウム、クロム酸等)の存在下、20~60℃の温度で反応させることにより行なわれる

【0111】一般式(II)、(III)、(IV)、(V)、(VI)、(VII-1)、(VII-2) (VIII)、(IX-1)、(IX-2)および

(X) で示される化合物はそれ自体公知であるか、あるいは公知の方法により容易に製造することができる。例えば、一般式 (III) で示される化合物のうち、6-ホルミルー1, 4-ベングジオキサンは市販されている。また、一般式 (II) で示される化合物として、例えば、一般式 (II-1)

[0112]

【化38】

(式中、TはーL-(ポリスチレン樹脂)、C1~8Tルキル基、C3~8の単環式炭素環、またはC3~8の単環式炭素環あるいは5~7員の単環式複素環によって置換されたC1~8Tルキル基を表わし、その他の記号は前記と同じ意味を表わし、Lは二価基を表わす。)や、一般式(I1-2)

[0113]

【化39】

(式中、すべての記号は前記と同じ意味を表わす。)で 示される化合物が挙げられる。本発明において、Lが表 わす二価基とは例えば、メチレン基が挙げられる。ま た、末端アミノ基ポリスチレン樹脂、つまりNH2-L - (ポリスチレン樹脂) としては、例えば、アミノメチ ルポリスチレン樹脂が挙げられる。

【0114】一般式(II-1) および一般式(II-2) で示される化合物中、例えばRbが 【化40】

46

である化合物は、以下の反応工程式(1)の方法によっ て製造することができる。

[0115]

【化41】

反応工程式(1)

$$T = N^* \equiv C^*$$
 (XVII)

$$R^2 = NH_2$$
 (XVV)
$$R^3 = NH_2$$
 (XIV)
$$R^3 = NH_2$$
 (XIV)
$$R^3 = NH_2$$
 (XIV)
$$R^3 = NH_2$$
 (XIV)
$$R^4 = NH_2$$
 (XIV)

【0116】反応工程式(1)中、Uはハロゲン原子を 表わし、その他の記号は前記と同じ意味を表わす。反応 工程式(1)中、一般式(XVII)で示される化合物は、 市販されているか、公知の方法または後記の実施例に記 40 載の方法により製造することができる。例えば、市販さ れているものとして、ベンジルイソシアニド、ブチルイ ソシアニド、2-モルホリノエチルイソシアニド等があ る。本発明におけるその他の出発物質および各試薬は、 それ自体公知であるか、または公知の方法により製造す ることができる。

【0117】本明細書中の各反応における反応生成物、 または最終反応の生成物は通常の精製手段、例えば、常 圧下または減圧下における蒸留、シリカゲルまたはケイ 酸マグネシウムを用いた高速液体クロマトグラフィー、

薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー、 溶媒による洗浄、再結晶またはそれらの組み合わせ等の 方法により精製することができる。

[0118]

【薬理活性】一般式(I)で示される本発明化合物の有 効性は、例えば、以下の実験によって証明された。先述 したように、HIVがCD4陽性細胞上の受容体である CXCR4、あるいはCCR5に結合することを阻害す る化合物のスクリーニングをするためには、HIVウイ ルスを用いたアッセイ系で行うことがより直接的な手法 である。しかし、HIVウイルスを大量スクリーニング に使用するには、その取り扱いの難しさから実用的では ない。一方、マクロファージ指向性 (R5) HIV-1 50 とRANTES、MIP-1α、MIP-1βが共にC CR5に結合することから、HIV側とRANTES、MIP-1 α 、MIP-1 β 側双方のCCR5結合部位、並びにCCR5側のRANTES、MIP-1 α 、MIP-1 β およびHIV結合部位には、何らかの共通する特徴があるものと予測し得る。したがって、既存の抗AIDS薬(逆転写阻害剤やプロテアーゼ阻害)と異なる作用機序であるHIVウイルスの細胞への吸着を阻害する化合物を発見するため、HIVの代わりにCCR5の内因性リガンドであるRANTES、MIP-1 α 、MIP-1 β を用いたアッセイ系が利用可能である。

【0119】具体的には、 $MIP-1\alpha$ とCCR5の結合を阻害する化合物をスクリーニングする系として、例えば、CCR5はG蛋白共役7回膜貫通型受容体であることから、 $MIP-1\alpha$ がCCR5を介して誘導するCaイオンの、一過性上昇に対する効果を測定する系が実施可能である。T細胞指向性(X4)HIVと、SDF-1が共にCXCR4に結合することから、同様な考え方が可能である。

【0120】[実験方法]

(1) ヒトCCR5遺伝子の単離

ヒト胎盤 c D N A は、Marathon cDNA amplification ki t(Clontech)を用いて作製した。PCRプライマーで あるhCCR5XbaI-F1:5'-AGCTAGTCTAGAT CCGTTCCCCTACAAGAAACTCTCC-3'(配列番号1)およびhCCR5XbaI-R1:5'-AGC TAGTCTAGAGTGCACAACTCTGACT GGGTCACCA-3'(配列番号2)は、GenBank U54994の配列に基き設計した。ヒト胎盤cDNAを鋳型 として、Ex Taq (Takara) を用いて、PCR反応(95 ℃で2分→ [95℃で30秒、60℃で45秒、72度 で1分]×35回)を行なった。増幅したPCR産物 を、1%アガロースゲル電気泳動後、OIAquick Gel Ext raction Kit (QIAGEN) を用いて精製し、制限酵素XbaI で切断した。切断した断片を、発現ベクターpEF-BOS-bs rにDNA Ligation Kit Ver.2(Takara)をもちいて連結 し、大腸菌DH5aに形質転換した。このプラスミドpEF-BO S-bsr/hCCR5を調製し、DNA配列を確認した。

【0121】(2) CHO細胞の培養

CHO-dhfr(-)は、Ham's F-12 (ウシ胎児血清 (10%)、ペニシリン (50U/ml)、ストレプトマイシン (50mg/ml) 含有)を用いて培養した。また、形質導入した細胞は、上記にブラストサイジン (5mg/ml)を添加し、培養した。

(3) CHO細胞への形質導入

DMRIE-C reagent (Gibco BRL) を用いて、プラスミドpE F-BOS-bsr/hCCR5をCHO-dhfr(-)細胞に形質導入した。 4 8 時間後、 $5 \,\mathrm{mg} \, / \,\mathrm{ml}$ のブラストサイジンを含む培地に交換して選択を行ない、安定過剰発現細胞を樹立した。

【0122】 (4) MIP-1αによるCCR5を介するCaイオン濃度の一過性上昇誘導活性に対する阻害実験

48

樹立したヒトCCR5安定過剰発現CHO細胞(CCR 5/CHO細胞)を、Ham's F-12培地およびFBS(1 0%) に懸濁し、96穴プレートに3.0×106 細胞/ 穴となるように巻き込んだ。37℃で1日培養した後、 培養上清を除去して、Ham's F-12培地 (Fura-2AM (5 μ M)、Probenecid (2.5mM) およびHEPES (20m M; pH7.4) 含有) を80μ1/穴添加し、遮光状態 で、37℃で1時間インキュベートした。1×Hanks/ HEPES (20mM; pH7.4) 溶液で2回洗浄した 後、同溶液を100 μ 1 / 穴添加した。このFura-2AMを 取り込んだCCR5/CHO細胞に対して、試験化合物 を添加後3分経過時に、1×Hanks/HEPES (20 mM; pH7.4) 溶液で希釈した組み換えヒトMIP-1 α (PeproTech) を、最終濃度 1 0 n M添加した。ヒ ト $MIP-1\alpha$ によって誘導される細胞内 Ca^{2+} 濃度 の一過性上昇を、96穴用Ca²⁺ 検出器(浜松ホトニ クス)を用いて測定し、試験化合物の阻害率(%)を以 下の計算式により算出した。

【0123】阻害率= (Ec-Ea) / Ec×100 Ec: MIP-1αによる [Ca] ²⁺ 一過性上昇の測 定値

E a : 試験化合物を添加した時の $MIP-1\alpha$ による Ca^{2+} 一過性上昇の測定値

その結果、本発明化合物は、 10μ Mで50%以上の阻害を示した。例えば、実施例1(1) の化合物はIC 50 値が 0.74μ M、実施例5 の化合物は 0.012μ Mであった。CCR 5 指向性のH I V株に対して吸着阻害効果を有する化合物を見出す系に関しては上述したが、この系を用いてCCR 5 あるいはそのリガンドの作用を阻害する化合物も見出すことは当然可能である。同様にして、他のケモカイン受容体とそのリガンドの作用を阻害する化合物を見出すことが可能である。

【0124】 [毒性] 本発明化合物の毒性は非常に低い ものであり、医薬として使用するために十分安全である と判断できる。

【0125】 [医薬品への適用] ヒトを含めた動物、特にヒトにおいて、一般式(I)で示される本発明化合物は、ケモカイン/ケモカイン受容体の作用を制御するので、各種炎症性疾患、喘息、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー疾患(アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、アレルギー性好酸球性胃腸症等)、腎炎、腎症、肝炎、関節炎、慢性関節リウマチ、乾癬、鼻炎、結膜炎、虚血再灌流傷害の抑制、多発性硬化症、潰瘍性大腸炎、急性呼吸窮迫症候群、細菌感染に伴うショック、糖尿病、自己免疫疾患の治療、移植臓器拒絶反応、免疫抑制、癌転移予防、後天性免疫不全症候群の予防および/または治療に有用である。

【0126】一般式(I)で示される本発明化合物、そ の非毒性の塩、酸付加塩、またはその水和物を上記の目 的で用いるには、通常、全身的または局所的に、経口ま たは非経口の形で投与される。投与量は、年齢、体重、 症状、治療効果、投与方法、処理時間等により異なる が、通常、成人一人あたり、1回につき、1mgから10 00mgの範囲で、1日1回から数回経口投与されるか、 または成人一人あたり、1回につき、1mgから100 mgの範囲で、1日1回から数回非経口投与(好ましく は、静脈内投与)されるか、または1日1時間から24 時間の範囲で静脈内に持続投与される。もちろん前記し たように、投与量は、種々の条件によって変動するの で、上記投与量より少ない量で十分な場合もあるし、ま た範囲を越えて必要な場合もある。

【0127】本発明化合物を投与する際には、経口投与 のための内服用固形剤、内服用液剤および、非経口投与 のための注射剤、外用剤、坐剤等として用いられる。経 口投与のための内服用固形剤には、錠剤、丸剤、カプセ ル剤、散剤、顆粒剤等が含まれる。カプセル剤には、ハー ードカプセルおよびソフトカプセルが含まれる。このよ 20 うな内服用固形剤においては、ひとつまたはそれ以上の 活性物質はそのままか、または賦形剤(ラクトース、マ ンニトール、グルコース、微結晶セルロース、デンプン 等)、結合剤(ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビ ニルピロリドン、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム 等)、崩壊剤(繊維素グリコール酸カルシウム等)、滑 沢剤(ステアリン酸マグネシウム等)、安定剤、溶解補 助剤(グルタミン酸、アスパラギン酸等)等と混合さ れ、常法に従って製剤化して用いられる。また、必要に よりコーティング剤(白糖、ゼラチン、ヒドロキシプロ 30 ピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース フタレート等)で被覆していてもよいし、また2以上の 層で被覆していてもよい。さらにゼラチンのような吸収 されうる物質のカプセルも包含される。

【0128】経口投与のための内服用液剤は、薬剤的に 許容される水剤、懸濁剤、乳剤、シロップ剤、エリキシ ル剤等を含む。このような液剤においては、ひとつまた はそれ以上の活性物質が、一般的に用いられる希釈剤 (精製水、エタノールまたはそれらの混液等) に溶解、 懸濁または乳化される。さらにこの液剤は、湿潤剤、懸 濁化剤、乳化剤、甘味剤、風味剤、芳香剤、保存剤、緩 衝剤等を含有していてもよい。非経口投与のための注射 剤としては、溶液、懸濁液、乳濁液および用時溶剤に溶 解または懸濁して用いる固形の注射剤を包含する。注射 剤は、ひとつまたはそれ以上の活性物質を溶剤に溶解、 懸濁または乳化させて用いられる。溶剤として、例えば 注射用蒸留水、生理食塩水、植物油、プロピレングリコ ール、ポリエチレングリコール、エタノールのようなア ルコール類等およびそれらの組み合わせが用いられる。 さらにこの注射剤は、安定剤、溶解補助剤(グルタミン 50 酸、アスパラギン酸、ポリソルベート80(登録商標) 等)、懸濁化剤、乳化剤、無痛化剤、緩衝剤、保存剤等 を含んでいてもよい。これらは最終工程において滅菌す るか無菌操作法によって製造、調製される。また無菌の 固形剤、例えば凍結乾燥品を製造し、その使用前に無菌 化または無菌の注射用蒸留水または他の溶剤に溶解して 使用することもできる。

【0129】非経口投与のためのその他の製剤として は、ひとつまたはそれ以上の活性物質を含み、常法によ り処方される外用液剤、軟膏剤、塗布剤、吸入剤、スプ レー剤、坐剤および膣内投与のためのペッサリー等が含 まれる。スプレー剤は、一般的に用いられる希釈剤以外 に亜硫酸水素ナトリウムのような安定剤と等張性を与え るような緩衝剤、例えば塩化ナトリウム、クエン酸ナト リウムあるいはクエン酸のような等張剤を含有していて もよい。スプレー剤の製造方法は、例えば米国特許第2, 868,691号および同第3,095,355号に詳しく記載されてい る。

[0130]

【実施例】以下、参考例および実施例によって本発明を 詳述するが、本発明はこれらに限定されるものではな い。クロマトグラフィーによる分離の箇所およびTLC に示されているカッコ内の溶媒は、使用した溶出溶媒ま たは展開溶媒を示し、割合は体積比を表わす。NMRの 箇所に示されているカッコ内の溶媒は、測定に使用した 溶媒を示している。R*とS*は、絶対位置を表わさず 相対位置のみを表わす。

【0131】参考例1 樹脂(2)の合成

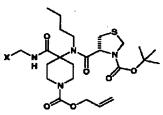
【化42】 X NH2 - HCI -樹脂(1) 樹脂(2)

【0132】アミノメチルポリスチレン樹脂・塩酸塩 (樹脂(1); Xはポリスチレン樹脂を表わす。) (3 0.0g) (1%ジビニルベンゼン共重合体、渡辺化学、 カタログ番号A00062) をジメチルホルムアミド(300 ml)、10%ジイソプロピルエチルアミンージメチル ホルムアミド溶液 (300ml) およびジメチルホルム アミド (300m1) で順次洗浄し、ジメチルホルムア ミド(200m1) に懸濁した。懸濁液に、ギ酸(10.2 m1) およびジイソプロピルカルボジイミド(42.3m 1)を、氷冷下で加え、室温で1時間攪拌した。反応溶 液から樹脂をろ取し、ジメチルホルムアミド (250m 1×3回)、ジクロロメタン (250ml×4回)、メ タノール (250m1×2回) およびジクロロメタン (250m1×4回)で洗浄して、樹脂(2)を得た。 $IR (KBr) : v 1682cm^{-1}$

【O133】<u>参考例2</u> 樹脂(3)の合成 【化43】

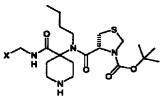
【0134】参考例1で得た樹脂(2)のジクロロメタン(300ml)懸濁液に、トリエチルアミン(18.8ml)、四塩化炭素(13.0ml)およびトリフェニルホスフィン(35.4g)を加え、1時間加熱還流した。反応溶液を室温で冷却後、樹脂をろ取した。樹脂を、ジクロロメタン(250ml×3回)、メタノール(250ml×1回)およびジクロロメタン(250ml×2回)で 10洗浄し、減圧乾燥して、樹脂(3)(28.2g)を得た。IR(KBr): ν2147cm⁻¹。

【0135】<u>参考例3</u> 化合物 (1) の合成 【化44】



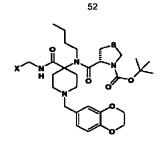
【0136】参考例2で製造した樹脂(3)(0.5g)のテトラヒドロフラン/メタノール(1:1;5ml)の懸濁液に、N-アリルオキシカルボニルー4ーピペリドン(0.40g)、n-ブチルアミン(0.21ml) およびN-(t-ブチルオキシカルボニル)-L-チオプロリン(0.51g)を加え、65℃で16時間攪拌した。反応溶液を室温で冷却し、樹脂をろ取した。得られた樹脂をテトラヒドロフラン(5ml×2回)、メタノール(5ml×2回)およびジクロロメタン(5ml×2回)で 30洗浄して、化合物(1)を得た。

【0137】<u>参考例4</u> 化合物 (2) の合成 【化45】



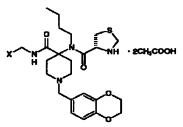
【0138】参考例3で製造した化合物(1)のジクロ 40 ロメタン(5 m l) 懸濁液に、酢酸(0.16 m l)、水素化トリブチルスズ(0.35 m l) およびテトラキストリフェニルホスフィンパラジウム(0) 錯体(50 m g)を加え、室温で6時間攪拌した。反応溶液から樹脂をろ取し、ジクロロメタン(5 m l × 3 回)、メタノール(5 m l × 2 回)、ジクロロメタン(5 m l × 2 回)およびジメチルホルムアミド(5 m l × 3 回)で洗浄して、化合物(2)を得た。

【0139】<u>参考例5</u> 化合物 (3) の合成 【化46】



【0140】参考例4で製造した化合物(2)のジメチルホルムアミド(5ml)懸濁液に、6ーホルミルー1,4ーベンゾジオキサン(0.21g)、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム(0.28g)および酢酸(0.05ml)を加え、室温で16時間攪拌した。反応溶液から樹脂をろ取し、ジメチルホルムアミド(5ml×2回)、ジクロロメタン(5ml×2回)、メタノール(5ml×2回)およびジクロロメタン(5ml×4回)で洗浄して、化合物(3)を得た。

【0141】<u>参考例6</u> 化合物(4)の合成 【化47】



【0142】参考例5で製造した化合物(3)を、50%トリフルオロ酢酸ージクロロメタン(5ml)溶液に懸濁し、室温で5分間攪拌した。反応溶液をろ過し、得られた樹脂を再度50%トリフルオロ酢酸ージクロロメタン溶液(5ml)に懸濁し、室温で30分間攪拌した。反応溶液からろ取した樹脂を、ジクロロメタン(5ml×4回)、トルエン(5ml×4回)、1.25M酢酸ートルエン溶液(5ml×1回)で洗浄して、化合物(4)を得た。

【0143】 実施例1

(3R) -1-ブチルー 2, 5-ジオキソー 3, 4-(2-チアプロパノ) -9-[(1, 4-ベンゾジオキサン -6-イル) メチル]-1, 4, 9-トリアザスピロ [5.5] ウンデカン・塩酸塩

【化48】

【0144】参考例6で製造した化合物(4)を1.25M 酢酸-トルエン溶液(5 m l)に懸濁し、90℃で24 時間攪拌した。反応溶液をろ過し、得られた樹脂をクロ ロホルムーメタノール(1:1;5 m l×2回)で洗浄 した。ろ液と洗浄液を濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(富士シリシア化学、FL60D; クロロホルム:メタノール=40:1)で精製した。得られた残渣のメタノール溶液を、1N塩酸で酸性にした後、濃縮して、以下の物性値を有する標題化合物(58mg)を得た。

TLC:Rf 0.56 (クロロホルム:メタノール=10:1);

NMR (CD₃ 0D) : δ 7.08 (d, J = 2.2 Hz, 1 H), 7.01 (dd, J = 8.4, 2.2 Hz, 1 H), 6.93 (d, J = 8.4 Hz, 1 10 H), 4.88 (d, J = 10.2 Hz, 1 H), 4.54 (dd, J = 9.2, 6.6 Hz, 1 H), 4.47 (d, J = 10.2 Hz, 1 H), 4.27 (s, 4 H), 4.17 (s, 2 H), 4.08 (m, 1 H), 3.70 - 3.45 (m, 4 H), 3.30 - 3.05 (m, 3 H), 2.51 (m, 1 H), 2.40 - 2.15 (m, 3 H), 1.80 - 1.25 (m, 4 H), 0.95 (t, J = 7.0 Hz, 3 H).

【0145】実施例1(1)

(3R) -1-ブチル-2, 5-ジオキソ-3, 4-(2-チアプロパノ) -9-[(4-フェノキシフェニル)メチル] -1, 4, 9-トリアザスピロ[5.5]ウンデカン・塩酸塩

【化49】

【 0 1 4 6 】参考例 2 で製造した樹脂(3)、N- アリルオキシカルボニルー4 ーピペリドン、n ーブチルアミ 30 ン、N- (t ーブチルオキシカルボニル) - L ーチオプロリン、および 4 ーフェノキシベンズアルデヒドを用いて、参考例 3 →参考例 4 →参考例 5 →参考例 6 →実施例 1 と同様の操作をし、以下の物性値を有する標題化合物を得た。

TLC: Rf 0.64 (クロロホルム: メタノール=1 0:1);

NMR (CD₃OD) : δ 7.54 (m, 2 H), 7.41 (m, 2 H), 7.19 (m, 1 H), 7.12 - 6.98 (m, 4 H), 4.89 (d, J = 10.4 Hz, 1 H), 4.55 (dd, J = 9.2, 6.6 Hz, 1 H), 4. 40 47 (d, J = 10.4 Hz, 1 H), 4.33 (s, 2 H), 4.11 (m, 1 H), 3.70 - 3.35 (m, 4 H), 3.28 - 3.08 (m, 3 H), 2.49 (m, 1 H), 2.40 - 2.18 (m, 3 H), 1.75 - 1.45 (m, 1 H), 1.45 - 1.25 (m, 3 H), 0.95 (t, J = 7.0 Hz, 3 H),

【0147】実施例2

(3S) -1-(2-メチルプロピル) -2, 5-ジオキソ-3, 4-プロパノ-9-(2-フェニルエチル) -1, 4, 9-トリアザスピロ [5.5] ウンデカン・酢酸塩

【化50】

【0148】参考例2で製造した樹脂(3)(200m g) のテトラヒドロフラン(1ml) とメタノール(1 ml) の懸濁液に、室温でN-(2-フェニルエチル) -4-ピペリドン (252mg)、イソブチルアミン (0.123ml) およびN-(t-ブチルオキシカルボニ ル)-L-プロリン (267mg) を加えた。反応混合 物を65℃で20時間攪拌した。反応溶液を室温で冷却 し、樹脂をろ取した。得られた樹脂をテトラヒドロフラ ン $(3m1 \times 4回)$ および塩化メチレン $(3m1 \times 5)$ 回) で洗浄し、乾燥して、樹脂(384mg) を得た。得 られた樹脂(146mg)を50%トリフルオロ酢酸-塩 化メチレン溶液 (2m1) に懸濁させ、室温で30分攪 拌した。反応溶液をろ過し、塩化メチレン(2ml×4 回)、メタノール(2ml×4回)、および塩化メチレ ン (2 m l × 4 回) で洗浄した。得られた樹脂を1.25M 酢酸ートルエン溶液 (2ml) に懸濁した。反応混合物 を90℃で20時間攪拌した。反応混合物をろ過し、ト ルエン $(2ml \times 3回)$ およびメタノール $(2ml \times 4)$ 回) で洗浄した。ろ液を濃縮し、以下の物性値を有する 標題化合物 (7 mg) を得た。

【0149】TLC:Rf 0.53 (クロロホルム:メタ ノール=10:1);

NMR (CD₃OD) : δ 7.40 - 7.15 (m, 5 H), 4.37 (m, 1 H), 3.80 - 3.40 (m, 5 H), 3.20 (m, 1 H), 3.10 - 2.80 (m, 5 H), 2.63 (m, 1 H), 2.50 - 2.20 (m, 4 H), 2.15 - 1.75 (m, 5 H), 1.98 (s, 3 H), 0.94 (d, J = 7.0 Hz, 3 H), 0.88 (d, J = 7.0 Hz, 3 H).

【0150】実施例2(1)~2(64)

参考例 2 で製造した樹脂 (3)、相当する4 ーピペリドン誘導体、相当するアミン誘導体および相当するアミノ酸誘導体を用いて、実施例 2 と同様の操作をし、以下の表 1 A - 1 C +

【0151】[条件A]

使用したカラム:YMC-Pack FL-ODS、50x4.6mmI.D.、S-5um、120A

使用した流速: 1 ml/min

使用した溶媒

A液:0.1%トリフルオロ酢酸水溶液

B液:メタノール

io 測定開始後2分間はA液とB液の混合比を90/10に固定し

た。その後20分間でA液とB液の混合比を20/80に直線的に変えた。その後5分間A液とB液の混合比を20/80に固定した。その後1分間でA液とB液の混合比を90/10に直線的に変えた。

【0152】 [条件B]

使用したカラム:YMC-Pack FL-ODS、50x4.6mmI.D.、

S-5um, 120A

使用した流速: 1 mL/min

使用した溶媒

A液:0.1%トリフルオロ酢酸水溶液

B液:メタノール

測定開始後1分間はA液とB液の混合比を90/10に固定した。その後16分間でA液とB液の混合比を10/90に直線的に変えた。その後1分間A液とB液の混合比を10/90に固定した。その後1分間でA液とB液の混合比を90/10に直線的に変えた。

【0153】[条件C]

使用したカラム:YMC-Pack FL-ODS、50x4.6mmI.D.、

S-5um, 120A

使用した流速: 1 mL/min

使用した溶媒

A液:0.1%トリフルオロ酢酸水溶液

B液:メタノール

測定開始時A液とB液の混合比を90/10にした。その後16分間でA液とB液の混合比を10/90に直線的に変えた。その後0.5分間A液とB液の混合比を10/90に固定した。その後0.5分間でA液とB液の混合比を90/10に直線的に変

えた。

【0154】[条件D]

使用したカラム:YMC-Pack FL-ODS、50x4.6mmI.D.、

56

S-5um, 120A

使用した流速: 3 mL/min

使用した溶媒

A液:0.1%トリフルオロ酢酸水溶液

B液:メタノール

測定開始時A液とB液の混合比を90/10にした。その後5分間でA液とB液の混合比を10/90に直線的に変えた。その後0.5分間A液とB液の混合比を10/90に固定した。その後0.1分間でA液とB液の混合比を90/10に直線的に変えた。

【0155】[条件E]

使用したカラム:XterraTM MS C₁₈ 5 um、4.6 x 50mm r n

使用した流速:3mL/min

使用した溶媒

A液:0.1%トリフルオロ酢酸水溶液

B被:0.1%トリフルオロ酢酸ーアセトニトリル溶液 測定開始後0.5分間はA液とB液の混合比を95/5に固定した。その後2.5分間でA液とB液の混合比を0/100に直線的に変えた。その後0.5分間A液とB液の混合比を0/100に固定した。その後0.01分間でA液とB液の混合比を95/5に直線的に変えた。

[0156]

【化51】

40

表 1 4 - 1

₹1A-1			
実施例	構造式	実施例	構造式
2(1)		2(5)	
2(2)		2(7)	
2(3)		2(8)	
2(4)		2(9)	
2(5)		2(10)	

[0157]

【化52】

59

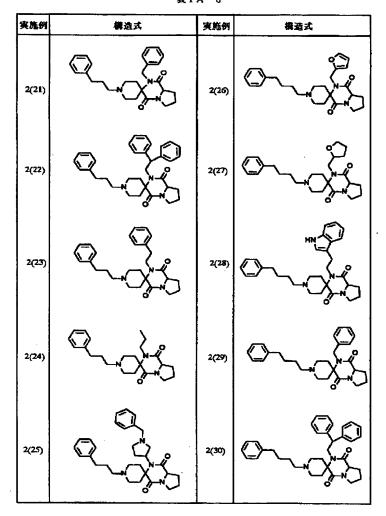
表1A-2

	我 1	A – 2	
実施例	構造式	実施例	構造式
2(11)		2(16)	
2(12)	HIN S	2(17)	
2(13)		2(18)	
2(14)		2(19)	
2(15)		2(20)	

[0158] [化53]

61

表1A-3



[0159]

63

表1A-4

(33)

実施例	構造式	実施例	構造式
2(31)		2(36)	
2(32)		2(37)	
2(33)		2(38)	
2(34)		2(39)	
2(35)		2(40)	

[0160]

【化55】

表1A-5

実施例	梯 造式	実施例	構造式
2(41)		2(46)	
2(42)		2(47)	
2(43)		2(48)	
2(44)		2(49)	
2(45)		2(50)	

[0161]

67

表1A-6

実施例	構造式	実施例	構造式
2(51)		2(56)	
2(52)		2(57)	
2(53)		2(58)	
2(54)		2(59)	
2(55)		2(60)	

【0162】 【化57】

(36)

特開2002-348288

70

69

表1A-7

実施例	構造式
2(61)	
2(62)	
2(63)	
2(64)	

【0163】 【表1】

10

20

30

表13-1

実施例 番号	化合物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Mass データ
2(1)	(3S) - 1 - (1 - ベンジル - 4 - ピベ リジェル) - 2, 5 - ジオキソ - 3, 4 - プロバノ - 9 - (2 - フェニルエチル) - 1, 4, 9 - トリアザスピロ[5, 5]ウン デカン	Б	ESI (Pos., 20 V)	3.11	501 (M + H)*
2(2)	(3S) - 1 - (2, 2 - ジフェニルプロピ ル) - 2, 5 - ジオキソー3, 4 - プロ パノー9 - (2 - フェニルエチル) - 1, 4, 9 - トリアザスピロ[5, 5]ウンデ カン	Е	ESI (Pos., 20 V)	3.66	522 (M + H)*
2(3)	1-(2-フラニルメチル) -2, 5-ジ オキソー3, 4-プロパノー9-ベン ジルー1, 4, 9-トリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.72	394 (M + H)*
2(4)	1ー(2ーテトラヒドロフラニルメチル) ー2,5ージオキソー3,4ープロバノ ー9ーベンジルー1,4,9ートリアザ スピロ[5,5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	2.94	398 (M + H)*
2(5)	1-(2-(3-インドール) エチル) - 2, 5-ジオキソー3, 4-プロパノー 9-ベンジルー1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	Е	ESI (Pos, 20 V)	3.18	457 (M + H)*
2(6)	l, 9ージベンジルー2, 5ージオキソ ー3. 4ープロペノー1, 4, 9ートリア ザスピロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.09	404 (M + H)*
2(7)	1-(2, 2-ジフェニルエチル) -2, 5-ジオキソー3, 4-プロパノー9- ベンジルー1, 4, 9-トリアザスピロ [5. 6]ウンデカン	A	APCI (Pos., 40 V)	20.7	494 (M + H)*
2(8)	1-(2-フェニルエチル) -2, 5- ジオキソー3, 4-プロパノー9ーベ ンジルー1, 4, 9ートリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	Е	ESI (Pos., 20 V)	3.15	418 (M + H)*
2(9)	1ープロピルー2, 5ージオキソー3, 4ープロペノー9ーベンジルー1, 4, 9ートリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	Е	ESI (Pos, 20 V)	2.95	356 (M + H)*
2(10)	l - (1 - ベンジル - 3 - ピロリジニ ル) - 2, 5 - ジオキソ - 3, 4 - プロ パノ - 9 - ベンジル - 1, 4, 9 - トリ アザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (P∞s, 20 V)	2.93	473 (M+H)*

[0164]

【表 2 】

表13-2

実施例 番号	化合物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(11)	1-(2-テトラヒドロフラニルメチル) -2,5-ジオキソ-3,4-プロパノ -9-(2-フェニルエチル)-1,4, 9-トリアザスピロ[6,5]ウンデカン	Б	ESI (Pos, 20 V)	3.01	412 (M + H)*
2(12)	1-(2-(3-インドール)エチル) - 2, 5-ジオキソ-3, 4-プロペノ- 9-(2-フェニルエテル) - 1, 4, 9 -トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.24	471 (M + H)*
2(13)	1ーベンジルー2, 5ージオキソー3, 4ープロパノー9ー(2ーフェニルエチル) ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5. 5] ウンデカン	P	ESI (Pos, 20 V)	3.16	418 (M + H)*
2(14)	1-(2, 2-ジフェニルエチル)-2, 5-ジオキソ-3, 4-プロペノ-9- (2-フェニルエチル)-1, 4, 9-ト リアザスピロ[5, 5]ウンデオン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.4	508 (M + H)*
2(15)	iー(2-フェニルエチル) -2, 5- ジオキソー3, 4ープロバノー9ー(2 -フェニルエチル) -1, 4, 9ートリア ザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.22	432 (M + H)*
2(16)	1ープロビルー2, 5ージオキソー3, 4ープロバノー9ー(2ーフェニルエチル) ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5, 5] ウンデカン	Œ	ESI (Pos, 20 V)	3.02	370 (M + H)*
2(17)	1-(1-ベンジル-3-ピロリジニ ル) -2、5-ジオキソ-3、4-プロ パノ-9-(2-フェニルエチル) - 1、4、9-トリアザスピロ[5、5]ウンデ カン	E	ESI (Pos, 20 V)	2.97	487 (M + H)*
2(18)	1-(2-フラニルメチル) -2, 5-ジ オキソ-3, 4-プロバノ-9-(3- フェニルプロビル) -1, 4, 9-トリア ザスピロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.13	422 (M + H)*
2(19)	1-(2-デトラヒドロフラニルメデル) -2, 5-ジオキソー3, 4-プロバノ -9-(3-フェニルプロピル) -1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカ ン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.07	426 (M + H)*
2(20)	1-(2-(3-インドール)エチル) - 2, 8-ジオキソ-3, 4-プロパノ- 9-(3-フェニルプロビル) - 1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.29	485 (M + H)*

[0165]

【表3】

表1B-3

実施例 番号	化合物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(21)	1-ベンジルー2, 5-ジオギソー3. 4-プロパノー9-(3-フェニルプロ ピル)ー1, 4, 9-トリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.22	432 (M + H)*
2(22)	1-(2, 2-ジフェニルエチル)-2, 5-ジオキソ-3, 4-プロペノ-9- (3-フェニルプロピル)-1, 4, 9- トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Fos, 20 V)	3.46	522 (M + H) ⁺
2(23)	lー(2-フェニルエチル)-2, 5- ジオキソ-3, 4-プロパノー8-(3 -フェニルプロピル)-1, 4, 9-トリ アザスピロ[5, 6]ウンデカン	E.	ESI (Pos., 20 V)	3.28	446 (M + H)*
2(24)	1ープロビルー2. 5ージオキソー3. 4ープロバノー9ー(3ーフェニルプロ ビル)ー1. 4. 9ートリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.09	384 (M + H)*
2(25)	[−(1−ベンジル−3−ピロリジニ ル) −2, 5−ジオキソ−3, 4−プロ パノ−9−(3−フェニルプロピル) − 1, 4, 9−トリアザスピロ[5, 5]ウンデ カン	E	ESI (Pas, 20 V)	3.03	501 (M + H)*
2(26)	lー(2ープラニルメチル) -2, 5-ジ オキソー3, 4ープロパノー9ー(4- フェニルブチル) -1, 4, 9ートリアザ スピロ[8. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.22	436 (M + H)*
2(27)	1~(2ーテトラヒドロフラニルメチル) ~2,5~ジオキソ~3,4~ブロパノ ~9~(4~フェニルブチル)~1,4, 9~トリアザスピロ[6.6]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.14	440 (M + H)*
2(28)	1-(2-(3-インドール)エチル) - 2, 5-ジオキソ-3, 4-プロパノ- 9-(4-フエニルブチル) - 1, 4, 9 -トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.35	499 (M + H)*
2(29)	l −ベンジル−2, 5−ジオキソ−3, 4−プロベノ−9−(4−フェニルブチ ル) −1, 4, 9−トリアザスピロ[5. 5] ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.29	446 (M + H)*
2(30)	1-(2, 2-ジフェニルエチル) -2, 5-ジオキソ-3, 4-プロバノ-9- (4-フェニルブチル) -1, 4, 9-ト リアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.51	536 (M + H)*

[0166]

【表4】

表13-4

実施例 番号	化合 物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(31)	1-(2-フェニルエチル)-2, 5- ジオキソ-3, 4-プロパノ-8-(4 -フェニルブチル)-1, 4, 9-トリア ザスピロ[5. 6]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.34	460 (M + H)*
2(32)	1ープロピルー2, 5ージオキソー3, 4ープロバノー9ー(4ーフェニルプチ ル) ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5, 6] ウンデカン		ESI (Fos, 20 V)	3.17	398 (M + H)*
2(33)	1-(1-ベンジルー3-ピロリジニ ル) -2,5-ジオキソー3,4-プロ パノ-9-(4-フェニルブチル) - 1,4,9-トリアザスピロ[5,5]ウンデ カン	₽.	ESI (Pos., 20 V)	3.09	515 (M + H) ⁺
2(34)	1-(2-フラニルメチル) -2, 5-ジ オキソー3, 4-プロパノー9-フェニ ルー1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5] ウンデカン	Е	ESI (Pos, 20 V)	3.02	380 (M + H) ⁺
2(35)	1-(2-テトラヒドロフラニルメチル) -2, 5-ジオキソー3, 4-ブロペノ -9-フェニルー1, 4, 9-トリアザス ピロ[5, 5]ウンデカン	£	ESI (Pos, 20 V)	2.91	384 (M + H)*
2(36)	1-(2-(3-インドール)エチル) - 2, 5-ジオキソー3, 4-プロパノー 9-フェニルー1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Poa, 20 V)	3.18	443 (M + H)*
2(37)	1-ベンジルー2, 5ージオキソー3, 4ープロバノー9ーフェニルー1, 4, 9ートリアザスピロ(5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	3.13	390 (M + H)*
2(38)	1-(2, 2-ジフェニルエチル) -2, 5-ジオキソ-3, 4-プロパノ-9- フェニル-1, 4, 9-トリアザスピロ [5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.42	480 (M + H)*
2(39)	1-(2-フェニルエチル)-2,5- ジオキソ-3,4-プロパノ-9-フェ ニル-1,4,9-トリアザスどロ[5. 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.18	404 (M + H)*
2(40)	1-プロピルー2、5-ジオキソー3、 4-プロバノー9-フェニルー1、4、 9-トリアザスピロ(5、5]ウンデカン	£	ESI (Pos, 20 V)	2.92	342 (M + H)*

[0167]

【表 5】

表1B-5

実施例 番号	化合物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(41)	I−(2−デトラヒドロフラニルメチル) −2, 5−ジオキソー3, 4−プロバノ −9−(5−フェニルベンチル) −1, 4, 9−トリアザスピロ[5, 5]ウンデカ ン	С	APCI (Pos., 40 V)	13.3	454 (M + H)*
2(42)	l-(2-(3-インドール) エチル) - 2, 5-ジオキソー3, 4-プロバノー 9-(5-フェニルベンチル) -1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	В	ESI (Pos, 20 V)	3.48	513 (M + H)*
2(43)	1ーベンジルー2, 5ージオキソー3, 4ープロパノー9ー(5ーフェニルペン チル) ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	Б	ESI (Pas, 20 V)	3.42	460 (M + H)*
2(44)	L−(2, 2−ジフェニルエチル) ~2, 5−ジオキソー3, 4−プロバノー9− (5−フェニルペンチル) −1, 4, 9− トリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	В	APCI (Pos., 40 V)	17.0	550 (M + H)*, 400, 293, 181
2(45)	1-(2-フェニルエチル)-2,5- ジオキソー3,4-プロバノー9-(5 -フェニルペンサル)-1,4,9-トリ アザスピロ[5,5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3,47	474 (M + H)*
2(46)	1-プロピルー2, 5-ジオキソー3, 4-プロペノー9ー(5-フェニルペン チル) ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos, 20 V)	3.3	412 (M + H)*
2(47)	1-(1-ベンジル-3-ピロリジニ ル)-2,5-ジオキソ-3,4-プロ パノ-9-(5-フェニルベンチル)- 1,4,9-トリアザスピロ[5,5]ウンデ カン	В	APCI (Pos., 40 V)	13.9	529 (M + H) ⁺ , 464, 370, 220
2(48)	1-(2ーテトラヒドロフラニルメチル) -2、5-ジオキソー3、4-プロパノ -9-(6-フェニルヘキシル) -1、 4、9-トリアザスピロ[5、5]ウンデカ ン	Е	ESI (Pos., 20 V)	3.38	468 (M + H)*
2(49)	l - (2 - (3 - インドール) エチル) - 2, 5 - ジオキソー3, 4 - プロパノー 9 - (8 - フェニルヘキシル) - 1, 4, 9 - トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	6	ESI (Pos., 20 V)	3.55	527 (M + H)*
2(50)	1-ベンジル-2, 5-ジオキソ-3, 4-プロバノ-9-(6-フェニルヘキ シル)-1, 4, 9-トリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	В	APCI (Pos., 40 V)	16.5	474 (M + H) ⁺ , 310, 201

[0168]

【表6】

表13-6

実施例 番号	化合物名	HPLC 条件	Mass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(51)	1-(2, 2-ジフェニルエチル) -2, 5-ジオキソ-3, 4-プロペノ-9- (6-フェニルヘキシル) -1, 4, 9- トリアザスピロ(5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	3.7	564 (M + H)*
2 (52)	1- (2-フェニルエチル) -2, 5- ジオキソ-3, 4-プロパノ-9-(6 -フェニルヘキシル) -1, 4, 9-トリ アザスピロ[5, 5]ウンデカン	В	APCI (Pos., 40 V)	16.9	488 (M + H)*, 324, 217
2(53)	1 - プロビルー2, 5 - ジオキソー3, 4 - プロパノー9 - (6 - フェニルヘキ シル) - 1, 4, 9 - トリアザスピロ[5. 5]ウンデカン	o.	APCI (Pos., 40 V)	14.0	425 (M + H)*, 262
2(54)	1-(1-ベンジルーS-ピロリジニル) -2、5-ジオキソー3、4-プロ パノー9-(6-フェニルヘキシル) - 1、4、9-トリアザスピロ[5、5]ウンデ カン	E	ESI (P∞s., 20 V)	3.3	543 (M + H) ⁺
2(55)	1ー(2ーフラニルメチル) ー2, 5ージ オキソー3, 4ープロバノー9ーメチル ー1, 4, 9ートリアザスピロ[5. 5]ウン デカン	ш	ESI (Pos., 20 V)	2.72	318 (M + H)*
2(56)	1ー(2ーテトラヒドロフラニルメチル) ー2, 5ージオキソー3, 4ープロベノ ー8ーメチルー1, 4, 9ートリアザスピ ロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	2.59	322 (M + H)*
2(57)	1-(2-(8-インドール) エチル) - 2, 6-ジオキソー3, 4-プロパノー 9-メチルー1, 4, 9-トリアザスピロ [6, 6]ウンデカン	Е	ESI (Pos., 20 V)	2.96	381 (M + H)*
2(58)	1ーベンジルー2、5ージオキソー3、 4ープロペノー9ーメチルー1、4、9 ートリアザスピロ[5、5]ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	2.87	328 (M + H)*
2(69)	1-(2, 2-ジフェニルエチル) -2, 5-ジオキソ-3, 4-プロパノ-9- メチル-1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5]ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	3.16	418 (M + H)*
2(60)	1-(2-フェニルエチル) -2, 5- ジオキソ-3, 4-プロパノ-9-メチ ル-1, 4, 9-トリアザスピロ[5, 5] ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	2.94	342 (M + H)*

[0169]

表18-7

実施例 番号	化合物名	YPLC 条件	Kass条件	保持時間 (分)	Massデータ
2(61)	1-プロピルー2,5-ジオキソ -3,4-プロパノー9-メチル -1,4,9-トリアザスピロ [5.5]ウンデカン	В	APCI (Pos., 40 V)	6.6	280 (M + H) ⁺
2(62)	1- (1-ペンジル-3-ピロリ ジニル) -2,5-ジオキソ- 3,4-プロパノ-9-メチル- 1,4,9-トリアザスピロ 「5,51 ウンデカン	E	ESI (Pos., 20 V)	2.83	397 (M + H) [↑]
	(3S) - 1 - 7 - 2 - 2, 5 -9 + 2 - 3, 4 - ((2R) -2 - 4 - 2 - 2 - 2, 5 -2 - 4 - 2 - 2, 5 -2 - 4 - 2, 5 -2 -	D	APCI (Pos., 40 V)	3.90	532 (M + H)*
2(64)	(3R) -1-プロビル-2,5 -ジオキソ-3,4-(2-チア プロパノ)-8-(8-フェニル ヘキシル)-1,4,8-トリア サスピロ[5,5]ウンデカン	Ď	APCI (Pos., 40 V)	4.16	444 (M + H)*, 398

【0170】<u>参考例7</u>

1-ベンジルー4-[N-ブチルーN-(1-t-ブトキシカルボニルアミノ)シクロペンチルカルボニル]ア ミノー4ー[(2ーモルホリノエチル)アミノ]カルボ ニルピペリジン

【化58】

クロペンタンカルボン酸(2.0g)、1ーベンジルピペリドン(1.6 ml)およびnーブチルアミン(1.1 ml)のメタノール(70ml)溶液に、2ーモルホリノエチルイソシアニド(1.2 ml)を加え、60 で一晩撹拌した。反応溶液を濃縮し、酢酸エチルで希釈した。希釈液を水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後、濃縮した。得られた固体をt-ブチルメチルエーテルで洗浄し、標題の粗生成物(2.03g)をろ取した。こ

【0172】実施例3

1-ブチル-2, 5-ジオキソ-3, 3-ブタノ-9-ベンジル-1, 4, 9-トリアザスピロ [5. 5] ウンデカン

れは精製することなく次の反応に用いた。

【化59】

【0173】参考例7で製造した化合物(1.56g)のジクロロメタン(5ml)溶液に、0℃でトリフルオロ酢酸(5ml)を加えた。混合溶液を15分間撹拌し、さらに室温で一晩撹拌した。反応溶液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、撹拌後、ジクロロメタンで抽出した。抽出液を無水硫酸ナトリウムで乾燥後、濃縮した。得られた固体をt-ブチルメチルエーテルで洗浄し、ろ取して以下の物性値を有する標題化合物(674mg)を得た。

TLC: 0.56 (クロロホルム: メタノール=10: 1):

NMR (CD₃OD) : δ 7.34-7.27 (m, 5H), 3.58 (s, 2 H), 2.86-2.84 (m, 4H), 2.30-2.11 (m, 4H), 1.88-1.7 O (m, 8H), 1.58-1.47 (m, 2H), 1.42-1.32 (m, 2H), 0.95 (t, J = 7.5 Hz, 3H).

【0174】実施例4

1ーブチルー2,5ージオキソー3,3ーブタノー1,4,9ートリアザスピロ[5.5]ウンデカン・塩酸塩【化60】

【0175】 実施例3で製造した化合物 (674mg) のエタノール (18ml) 溶液に、アルゴン雰囲気下、20%水酸化パラジウム炭素 (135mg) を加えた。

混合物を水素雰囲気下、45℃で一晩撹拌した。反応混合物を放冷後、アルゴン置換し、セライト(登録商標) ろ過した。ろ液に4N塩酸/酢酸エチル(1ml)を加え、濃縮して、以下の物性値を有する標題化合物(569mg)を得た。

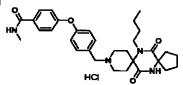
TLC:0.60 (tーブタノール:酢酸:水=4:2:1) ·

NMR (CD₃OD) : δ 3.83-3.73 (m, 2H), 3.42-3.36 (m, 4H), 2.38-2.22 (m, 4H), 2.13-2.08 (m, 2H), 1.8 5 -1.72 (m, 6H), 1.61-1.50 (m, 2H), 1.45-1.33 (m, 2 H), 0.97 (t, J = 7.5 Hz, 3H).

【0176】実施例5

1ーブチルー2,5ージオキソー3,3ーブタノー9ー [4ー(4ーメチルカルバモイルフェノキシ)ベンジル]-1,4,9ートリアザスピロ[5.5]ウンデカン・塩酸塩

【化61】



【0177】実施例4で製造した化合物(100mg) および4-(4-メチルカルバモイルフェノキシ) ベンズアルデヒド(85mg)を1%酢酸/ジメチルホルムアミド(2m1)溶液に溶解し、2時間撹拌後、水素化トリアセトキシホウ素ナトリウム(96mg)を加えた。混合物を一晩撹拌し、濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(酢酸エチル:メタノール= $30:1\rightarrow15:1$)で精製し、4N塩酸/酢酸エチル(1m1)を加え、濃縮した。得られた固体をt-ブチルメチルエーテルで洗浄し、ろ取して以下の物性値を有する標題化合物(<math>121mg)を得た。

【O178】TLC:0.51(酢酸エチル:メタノール=4:1);

NMR (d₆-DMS0) : δ 10.89 (br-s, 1H), 8.59 (s, 1 H), 8.40 (br-d, J = 4.5Hz, 1H), 7.87 (d, J = 8.7 H z, 2H), 7.68 (d, J = 8.7 Hz, 2H), 7.13 (d, J= 8.7 Hz, 2H), 7.07 (d, J = 8.7 Hz, 2H), 4.32 (m, 2H), 3.65-3.45 (m, 2H), 3.44-3.30 (m, 4H), 2.76 (d, J = 4.5 Hz, 2H), 2.56-2.42 (m, 2H), 2.08-1.97 (m, 4 H), 1.80-1.60 (m, 6H), 1.45-1.35 (m, 2H), 1.34-1.2 0 (m, 2H), 0.88 (t, J = 7.5 Hz, 3H)。

【0179】 [製剤例]

<u>製剤例1</u>

以下の各成分を常法により混合した後打錠して、一錠中に50mgの活性成分を含有する錠剤100錠を得た。

85

86

37

− [(1, 4 – ベンゾジオキサン – 6 – イル) メチル] – 1, 4, 9 – トリアザ スピロ [5. 5] ウンデカン・塩酸塩 ・カルボキシメチルセルロースカルシウム(崩壊剤) ----0.2 g ・ステアリン酸マグネシウム(潤滑剤) ----0.1 g ・微結晶セルロース ----4.7 g 結乾燥し、1アンプル中20mgの活性成分を含有する 【0180】製剤例2 アンプル100本を得た。 以下の各成分を常法により混合した後、溶液を常法によ り滅菌し、5mlずつアンプルに充填し、常法により凍 \cdot (3R) -1-7 $+ \nu - 2$, 5-5 $+ \nu - 3$, 4-(2-4) $+ \nu - 2$ - [(1, 4-ベンゾジオキサン-6-イル) メチル] - 1, 4, 9 − トリアザ スピロ [5.5] ウンデカン・塩酸塩 ----2.0 g ・マンニトール ---- 20 g ----500m l ・蒸留水 [0181] 【配列表】 SEQUENCE LISTING <110> ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD. <120> Triazaspiro [5.5] undecane derivatives and medicament containing the derivative as active ingredient <130> ONP3734 <160>2<170> PatentIn Ver. 2.1 <210> 1 <211> 37 <212> DNA <213> Artificial Sequence <220> <223> Description of Artificial Sequence: Forward primer hCCR5Xba1 <400> 1 agctagtcta gatccgttcc cctacaagaa actctcc 37 <210> 2 <211> 37 <212> DNA <213> Artificial Sequence <220> <223> Description of Artificial Sequence: Revese primer hCCR5Xba1 <400> 2

フロントページの続き

(51) Int.C1. ⁷		識別記号	FI		テーマコード(参考)
A 6 1 P	1/16		A 6 1 F	1/16	
	3/10			3/10	
	9/10			9/10	

agctagtcta gagtgcacaa ctctgactgg gtcacca

11/00		11/00	
11/02		11/02	
11/06	~	11/06	
13/12		13/12	
17/04		17/04	
17/06		17/06	
19/02		19/02	
25/00	1 0 1	25/00	101
27/02 .		27/02	
29/00		29/00	
	1 0 1		101
31/18		31/18	
35/04		35/04	
37/02		37/02	
37/06		37/06	
37/08		37/08	

Fターム(参考) 4C065 AA16 BB04 BB10 CC01 CC06

DDO3 EEO2 EEO3 HHO9 JJ01

KK09 LL04 PP03

4C072 AA04 BB03 CC03 CC16 EE13

FF08 GG07 HH05

4C086 AA01 AA02 AA03 CB09 CB29

MA01 NA14 ZA02 ZA33 ZA34

ZA36 ZA59 ZA68 ZA75 ZA81

ZA89 ZA96 ZB07 ZB08 ZB11

ZB13 ZB15 ZC35 ZC55

L13 ANSWER 1 OF 1 HCA COPYRIGHT 2005 ACS on STN

Full Text

AN 128:154093 HCA

ED Entered STN: 24 Mar 1998

TI Memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivatives, pharmaceutical compositions containing them and process for their production

IN Bartane Szalai, Gizella; Schoen, Istvan; Pellioniszne Paroczai, Margit; Kiss, Bela; Karpati, Egon; Kis-Varga, Agnes; Lapis, Erzsebet; Gere, Aniko; Laszlovszky, Istvan; Csomor, Katalin; Farkas, Sandor; Horvath, Csilla; Szabo, Sandor; Horvath, Peter; Laszy, Judit; Szantay, Csaba, Jr.

PA Richter Gedeon Vegyeszeti Gyar Rt., Hung.

SO Hung. Teljes, 18 pp.

CODEN: HUXXBU

DT Patent

LA Hungarian

IC ICM C07D471-10 ICS A61K031-505

CC 28-16 (Heterocyclic Compounds (More Than One Hetero Atom))
Section cross-reference(s): 1, 63

FAN.CNT 1

PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
PI HU 76345 PRAI HU 1995-3664	A2	19970828 19951220	HU 1995-3664	19951220 <
CLASS				·
PATENT NO. CLASS	PATEN	r family CL	ASSIFICATION CODES	
	C07D47			
		-505		
OS MARPAT 128:154093				

GI

AB Title compds. I and their pharmaceutically useful acid-addn. salts are claimed, where X = carbonyl, carbonyloxy, CONH, CSNH, or sulfonyl groups; R = linear or branched C1-4 alkyl which may contain 1-3 halogen atoms; C1-4-alkyl- or C1-4-alkoxy- or 1-2 nitro-group-substituted aryl or aralkyl which may contain 1-5 halogen atoms; or XR together = H, as well as a process for their prodn. via spirocyclization of anthranilamide with 1-(ethoxycarbonyl)-4-piperidone, followed by hydrolysis of the resultant I (X = carbonyloxy, R = Et) to the XR = H compd. and derivatization of the latter by acylation or treatment with isocyanates, isothiocyanates, or conversion to salt. Thus, e.g., a spirocyclization, hydrolysis, and acetylation sequence afforded I (X = CO, R = Me; 01 10519) which exhibited anti-amnesia activity in both anterograde and retrograde assays at 0.1-10.0 mg/kg p.o.

ST memory enhancement spiro piperidine quinazoline deriv; dementia treatment spiro piperidine quinazoline deriv

IT Mental disorder

STN Tokyo

(dementia, treatment; memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)

- IT Memory effect
 - (enhancement; memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)
- IT Cognition enhancers

(memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)

- IT Spiro compounds
 - RL: BAC (Biological activity or effector, except adverse); BSU (Biological study, unclassified); IMF (Industrial manufacture); RCT (Reactant); SPN (Synthetic preparation); THU (Therapeutic use); BIOL (Biological study); PREP (Preparation); RACT (Reactant or reagent); USES (Uses)

(memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)

- IT 198705-41-8P 202826-52-6P
 - RL: BAC (Biological activity or effector, except adverse); BSU (Biological study, unclassified); IMF (Industrial manufacture); RCT (Reactant); SPN (Synthetic preparation); THU (Therapeutic use); BIOL (Biological study); PREP (Preparation); RACT (Reactant or reagent); USES (Uses)

(memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)

- IT 202826-53-7P 202826-54-8P 202826-55-9P 202826-56-0P 202826-57-1P 202826-58-2P 202826-59-3P 202826-60-6P 202826-61-7P RL: BAC (Biological activity or effector, except adverse); BSU (Biological study, unclassified); IMF (Industrial manufacture); SPN (Synthetic preparation); THU (Therapeutic use); BIOL (Biological study); PREP (Preparation); USES (Uses)
 - (memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)
- **T 88-68-6, Anthranilamide 29976-53-2, 1-(Ethoxycarbonyl)-4-piperidone RL: RCT (Reactant); RACT (Reactant or reagent) (memory-enhancing spiro[piperidin-4,2'(1'H)-quinazolin]-4'(3'H)-one derivs., pharmaceutical compns. contg. them and process for their prodn.)

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

□ OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.